

大久保南遺跡(4次)ほか 発掘調査報告書

—後期旧石器時代前半の遺跡—



1999

長野県信濃町教育委員会

大久保南遺跡(4次)ほか

発掘調査報告書

— 後期旧石器時代前半の遺跡 —

1999

長野県信濃町教育委員会

目 次

目 次	
例 言	
I 調査の経過	1
1 10年度信濃町発掘調査の概要.....	1
2 調査体制.....	1
II 大久保南遺跡	1
1 発掘の概要と経過.....	1
2 発掘地の地形と地質.....	1
3 遺構・遺物の出土状況.....	2
4 旧石器時代の石器.....	2
1) H 8 ブロック.....	2
2) E 2 ブロック.....	4
3) F 3 ブロック.....	4
5 繩文時代の遺構.....	5
6 大久保南遺跡第4次調査の成果.....	5
III 丸谷地遺跡 (4次調査)	5
1 発掘の概要と経過.....	5
2 出土遺物.....	6
3 成果.....	7
IV 町内における試掘調査	8
1 大久保A遺跡.....	8
2 東裏遺跡.....	8
3 上ノ原遺跡.....	8
V ま と め	8
文 獻	
図 版	
報告書抄録	
英文要旨	

例 言

- 1 本書は平成10年度の大久保南遺跡、丸谷地遺跡など信濃町内における遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、国および県から補助金交付を受けた信濃町教育委員会が、平成10年4月10日から平成11年3月20日にかけて実施した。整理作業は主に12月～3月におこなった。
- 3 本書は調査によって確認された遺物とその出土状況を中心に、基礎資料を提示することに重点をおいた。
- 4 本書作成に至る分担は、下記のとおりである。
遺物・記録の整理・図版作製
今井美枝子・万場弘子・長谷川悦子・
横山真理子・佐藤ユミ子

石器実測 佐藤ユミ子・内田陽一郎
川端結花・中村由克
図版作成・編集補助 佐藤ユミ子
執筆 中村由克
内田陽一郎 (II-4)
編集 中村由克

5 調査によって得られた諸資料は、野尻湖ナウマンゾウ博物館で保管している。出土資料の注記番号は、次のとおりである。

大久保南遺跡	980 KM
丸谷地遺跡	98M Y
東裏遺跡	98H U
大久保A遺跡	98O K A

I 調査の経過

1 10年度信濃町発掘調査の概要（表1）

平成10年度、信濃町教育委員会では、国道・県道・町道などの公共事業や民間事業が相次いだため、埋蔵文化財の発掘調査が多く実施された。本年度は、4月当初より1班体制で、4月から12月まで現場調査が実施され、引き続き3月まで整理作業をおこなった。今年度におこなった主な発掘調査は、表1のとおりである。

この内、個人住宅建設にともなう発掘調査の大久保南遺跡・上ノ原遺跡、開発事業の試掘調査の丸谷地遺跡・大久保A遺跡・東裏遺跡の調査には、国および県からの補助金交付を受けた。

2 調査体制

大久保南遺跡等の発掘調査は、信濃町教育委員会の直営事業として実施し、組織は以下のとおりである。

調査主体者 信濃町教育委員会

教育長 小林一盛

事務局 総務教育課 課長 北村敦博

係長 北村恭一 担当 池田昭博

調査担当者 中村由克

担当職員 池田昭博

調査参加者 青柳成子、麻田紀子、池田か己子、荻原敬藏、落合春人、小日向キヨ子、片山トヨ、金子シズイ、金子房江、北村フクコ、木村キミ子、小林正義、小林栄

子、駒村幸男、佐藤清子、佐藤道子、佐藤美佐江、佐藤儀信、沢尻ユキ子、関塚恒、高橋は清、竹内良子、竹内ゆき子、東貢、平塚せつ子、深沢政雄、卷柄恵子、松岡さとみ、松木由美、湯井京子、吉川栄子

今井美枝子、佐藤ユミ子、長谷川悦子、横山真理子、万場弘美

なお、報告書作成にあたって、次の方がたにご指導をいたしました。ここにご芳名を記し、感謝の意を表する次第である（敬称略）。

小笠原永隆、中沢道彦、Anden David Eliot

II 大久保南遺跡

1 発掘の概要と経過（図1）

大久保南遺跡は信濃町柏原地区の大字柏原字向山、中山に所在する。柏原から野尻に通じる町道に隣接した丘陵地の頂部で、伊勢見山から北西にのびる尾根のやや凹んだ峠にあたる場所である。遺跡は昭和54年、岡山大学院生の吉留秀敏氏が野尻湖陸上発掘に参加した折、道路沿いの切り通しで剥片数点を発見して確認された。昭和60年にはこの小丘頂部の墓地より西側の部分が土取場となり、表土掘削時に石器・土器が発見され、山頂部分の残存していた遺物包含層の発掘調査を野尻湖博物館が中心になって、野尻湖人類考古グループや博物館実習生の協力をえて実施された。旧石器時代の石刃石器群などの石器や縄文時代早期の遺物約300点が出土した。

さらに、平成7年には長野県埋蔵文化財センターにより上信越自動車道用地内の発掘調査がおこなわれ、信濃町教育委員会により平成7年、8年に主要地方道信濃信州新線用地内の発掘調査が実施された。

今回の場所は平成9年度末、町道に隣接した遺跡内で住宅建設がおこなわれる計画がもたらされ、協議の結果、建設に先立って平成10年4月から発掘調査をおこなうこととなった。調査は4月10日に着手して5月27までおこなわれた。発掘総面積は450m²で、立木の伐採後、木の根を残して表土剥ぎを重機を使用しておこない、あとは人力によって発掘作業を進めた。

2 発掘地の地形と地質（図2—図4）

発掘地は緩く南側に傾斜する丘陵地に立地する。この丘陵は、伊勢見山から北西につづく尾根、山地の凹部にあたり、大久保の盆地から柏原に通じる道路の峠にあた

る。調査地はこの峠の頂部で、町道に隣接する西側の山林を造成し、住宅を建設する事業に伴うものである。調査地の標高は716.0mから713.1mである。

この丘陵は、鮮新世の古海層を基盤として、その上を中心・後期更新世の信濃町ローム層、神山ローム層、野尻ローム層などの風化火山灰層がおおい、さらに完新世の柏原黒色火山灰層がおおっている。発掘地では、下位より上部野尻ローム層Ⅰの褐色ローム層、27cmの黒色帶、

9cmの上部野尻ローム層Ⅱ最下部(上Ⅱ最下部)、17cmの上部野尻ローム層Ⅱ上部(上Ⅱ下部～上部)、9cmの上部野尻ローム層Ⅱ最上部(モヤ)、25～45cmの柏原黒色火山灰層、15cmの表土などの層位が観察された。

3 遺構・遺物の出土状況

1) 遺物の出土状況(図5-図7)

大久保南遺跡個人住宅地点の発掘では、約450m²から総数799点の遺物が出土した。それらの大半は旧石器時代のものである。上部野尻ローム層中の遺物を平面的にみると、H8グリッドを中心とする遺物集中区(H8ブロック)と、8列以南にやや密度の低い遺物集中区がある。H8グリッドに配石遺構が1基、F3グリッドに礫群が1基確認できた。

H8ブロックは、H8グリッドを中心として直径10mほどの円形状の広がりをもち、東端は調査区外にのびる。遺物は上Ⅱ下部から上Ⅱ最下部にかけて全遺物数の約6割が出土し、石材はほとんどが黒曜石である。上Ⅱ最下部の中～下半部にかけて配石遺構が伴っており、ブロックの石器類もほぼこの層準に帰属するものと考えられる。

8列以南の遺物集中区は、集中度は高くないが、見かけ上E2・F1グリッド(E2ブロック)とF3・G3グリッド(F3ブロック)の遺物集中部に分けられる。E2ブロックは上Ⅱ上部～上Ⅱ中部にかけて遺物が多く出土し、石材は黒曜石、無斑晶質安山岩を主体とする。比較的緩慢な分布をしており、調査区内の地形を考慮すると、これらの遺物は南北方向から雨水等により若干移動して散乱した状況とも考えられる。したがって、E2ブロックとした遺物の出土状況は、原位置の状態を保っていないものと推定される。

F3ブロックは上Ⅱ上部～上Ⅱ下部にかけて遺物が多く出土し、石材は無斑晶質安山岩を主体とし、玉髓、蛇紋岩、黒曜石を伴う。このブロックの無斑晶質安山岩製の遺物は、数量的に上Ⅱ上部と上Ⅱ下部に分かれて出土する傾向があり、製品としての石器は層位的ににも、形態的にも上Ⅱ上部文化層に帰属するものと考えられ、上Ⅱ下部からは製品としての石器は出土していない。剥片等の接合資料をみると両層にまたがる接合資料があり、遺物の上下移動が予想され、剥片レベルでの分離は難し

い。

玉髓製の遺物は上Ⅱ中部に多く出土する傾向があり、製品は出土していない。母岩は複数存在する。蛇紋岩製の剥片は上Ⅱ上部に多く出土するが、蛇紋岩製の石斧は上Ⅱ最下部上面から出土している。黒曜石は上Ⅱ上部～上Ⅱ中部にかけて出土した。そして、F3グリッド北端に上Ⅱ下部の上部付近から礫群が出土している。

以上のことから、F3ブロックとしたところは、複数の文化層の石器群が混在しているものと考えられる。予想される本来の層準は、礫群と玉髓石器群、無斑晶質安山岩の一部の剥片が上Ⅱ下部で、これらはあまり移動が多くない遺物だと推定される。これに対して、無斑晶質安山岩の製品としての石器と一部の剥片、黒曜石の石器群は上Ⅱ上部にあり、E2ブロックの遺物が拡散して混在したもの可能性がある。また、蛇紋岩製の石器群は、本来、上Ⅱ最下部文化層あるいは黒色帯に帰属するものと考えられる。

2) 旧石器時代の遺構(図8)

大久保南遺跡個人住宅地点で検出された明確な遺構としては、配石遺構と礫群が各1基、確認された。

配石遺構はH8グリッドの中央部からやや南東よりも、上Ⅱ最下部の中～下半部より検出された。40×25cmの範囲に、幼児頭大の亜角礫2点とその礫から剥落した薄い剥片2点の計4点が出土した。礫2点の表面は剥落した部分を除いて赤化しており、黒赤色の付着物が観察される。H8ブロックの比較的の石器の集中して出土した部分と重なり、層位的にみてもH8ブロックの石器群に伴うものと考えられる。

礫群はF3グリッド北端に上Ⅱ下部の上部より検出された。80×80cmの範囲に直径6～13cmの亜角礫が10点出土した。礫はすべて赤化しており、黒赤色付着物の付くもの、割れて接合するものがある。

4 旧石器時代の石器(図10-図15、表2-表5)

1) H8ブロック(図6)

主要な遺物は、ナイフ形石器8点、彫器2点、搔器1点、削器8点、微細剥離痕のある剥片10点などである。

ナイフ形石器：ナイフ形石器はすべて折損品であるため、全体の形状等は不明なものが多い。縦長剥片を素材とし、打面部を基部として基部周辺に刃削り加工が施さ

れたもの（1、2）、縦長剥片の末端部の一側縁に刃溝し加工が施されたナイフ形石器の先端部（3、4）、縦長剥片もしくは剥片の二側縁に二次加工が施されたもので、ナイフ形石器の基部と考えられるもの（5、6、7、8）がある。石材はすべて黒曜石である。

1は縦長剥片の打面部側の二側縁に素材剥片の打面を残し、腹面から急斜な角度の二次加工（刃溝し加工）が施されたもので先端部を折損する。

2は縦長剥片の打面部周辺の一側縁に背面から比較的微細な加工が施されたナイフ形石器で、先端部を折損する。

3は縦長剥片の末端部一側縁に腹面から刃溝し加工が施される一端が尖るもので、反対側縁には微細な剥離痕が背腹両面に観察される。

4は縦長剥片の末端部一側縁に腹面からやや剥離角の大きい刃溝し加工が施されたものである。

5は折れ面と二次加工の切り合いから下端部折損後、二側縁に腹面から刃溝し加工が施され上端部が折損したものである。素材剥片の用い方を考慮すると1と同一形態のナイフ形石器の基部と考えられる。

6は縦長剥片の一側縁と反対の側縁の一部に腹面から刃溝し加工が施されたもの。下端部折れ面を打面として背面側に平坦な微細剥離痕が観察される。

7は剥片の末端部二側縁に腹面から剥離角120度前後のやや平坦な二次加工が施され、V字状の端部が作り出されているもので一端を折損する。

8は剥片の末端部に正面図右側縁は腹面から左側縁は背面から二次加工が施され、U字状の端部が作り出されているもので、一端を折損する。6、7、8については、素材剥片の用い方および加工痕が折損度の低いナイフ形石器（1～4）のものと異なるため、それらのナイフ形石器と異なる形態のナイフ形石器もしくは他器種の石器の一部と考えられる。

彫器：彫器は縦長剥片の一端もしくは両端を折り取り、または二次加工を施し、素材剥片の縁辺に桶状剥離を施す個別型の彫刻面をもつもので、石材は珪質頁岩（9）、黒曜石（10）である。

9は縦長剥片の打面部側に腹面から急斜な角度の二次加工が施され、その面を打面として腹面の右側縁に桶状剥離が、上側縁には腹面に並行する小剥離が施されている。背面右側縁には腹面からの微細な二次加工が施され、下端を折損する。10は縦長剥片の打面部と末端部が折り取られ、それらの折れ面を打面として背面左側縁に桶状剥離が施されている。また、背面右側縁には腹面から二次加工が施されている。

搔器：11はやや厚手の剥片の末端部に急斜な角度の二次加工を施し、弧状の縁辺が作り出されている。

平面形状が円形を呈する円形搔器で、石材は黒曜石である。

削器：削器は主として5cmを越える比較的大形の縦長剥

片の側縁に、剥離角130度前後の平坦な二次加工が連続的に施されたもの（12、13）、剥離角110度前後のやや急斜な角度の微細な二次加工（1mm程度）が連続的に施されたもの（14～18）がある。石材はすべて黒曜石である。

12は縦長剥片の二側縁に腹面からやや平坦な二次加工が施されたもの。末端部を折損する。打面部付近の二側縁の二次加工は刃溝し状の剥離痕が観察されることから、打面部を基部とするナイフ形石器の可能性を考えられる。

13は縦長剥片の背面右側縁に腹面から、左側縁上半部には背面から、左側縁下半部には腹面からそれぞれ平坦な二次加工が施されたものである。14は縦長剥片の背面右側縁に腹面から、15は背面左側縁上半部に腹面から、下半部には背面から、16は二側縁に腹面から、17は右側縁に背面から、18は横長剥片の末端縁と左側縁（正面図の右側縁）に腹面からそれぞれやや急斜な角度の微細な二次加工が施されたものである。14～18にみられる急斜な角度の微細な剥離痕は加工痕と判断したが、使用痕の可能性も否定できない。

19は剥片の左側縁（裏面図の左側縁）に比較的大きな平坦な剥離痕と微細な剥離痕が混在するものである。

抉入石器：縦長剥片の側縁に2回程度の剥離を加えて抉り状の縁辺を作り出したもの（20）、複数回の剥離を加えて作り出したもの（21）がある。石材はすべて黒曜石である。

20は縦長剥片の右側縁に腹面から2回程度の剥離で抉りが作り出されたもので、末端部には微細な剥離はあるが抉器状の剥離痕が観察される。打面部を欠損する。

21は縦長剥片の左側縁に、腹面から剥離角が90度前後の刃溝し加工により抉が作り出されたもので、この加工により末端部を折損する。ナイフ形石器の未製品の可能性がある。

微細剥離痕のある剥片：剥片の側縁に剥離痕が観察できるもので部分的に剥離痕が見られるもの（22～26、30）、縁辺部すべてに見られるもの（27～29）があり、剥離痕の形態は様々なものがある。加工痕か使用痕かの区別はつかない。石材はすべて黒曜石である。

22、23は剥片の背面左側縁に部分的な平坦な剥離痕があり、24、26は縦長剥片の右側縁に、25は左側縁に部分的なやや急斜な角度の剥離痕がある。

27～29は剥片の縁辺部すべてに剥離痕が観察できるもので、27は縦長剥片の背面右側縁と腹面右側縁にそれぞれ平坦な剥離痕がある。28は背面にさまざまな角度の剥離痕が混在する。29は背面の二側縁に急斜な角度の剥離痕がある。30は、石核の縁辺に平坦な剥離痕が見られるもので、剥片剥離時についたものとも考えられる。

剥片：剥片は縦長剥片（31～40）、削片（41）がある。図化したもの石材はすべて黒曜石である。

31～40は縦長剥片である。39、38は比較的小型なもので、削片もしくは細石刃の可能性もある。背面に残る剥

離面の方向は、ほぼ腹面の剥離方向と一致する。打面形態は33が線打面、34、36~38は切子打面と全体的に切子打面が多い。打面は比較的幅広く残り、打面の幅がほぼ剥片の最大幅になるものが多い。これらの特徴は他の石器の素材となった縦長剥片についても同様であり、原則として単設打面の石核から剥片を剥離することに打面調整をおこなう剥片剥離技術が想定できる。42はやや横長傾向の剥片であるが、打面線に腹面との切り合い関係は持たないが、平坦な剥離痕が観察され、左側縁を刃部みると台形様石器の可能性がある。

剥片：41は端部を折り取り左側縁に平坦な二次加工が施された剥片の折れ面を打面として剥離された剥片である。

2) E2ブロック（図7）

主要な遺物は、ナイフ形石器11点、台形（様）石器1点、彫器1点、搔器1点、削器2点、石核4点、敲石1点などである。

ナイフ形石器：ナイフ形石器は、一側縁全部と反対側の基部側縁に刃済し加工が施されたもの（43~45）、背腹両面に調整加工が施されたもの（46）、折損品で端部に部分的な刃済し加工が施されたもので、先端加工のナイフ形石器の先端部と考えられるもの、（47~50）両端を折損したもの（51）、基部の折損品と考えられるもの（52、53）がある。石材は黒曜石（43、47~53）、無斑晶質安山岩（44~46）である。

43は縦長剥片の打面部を基部として片側一側縁と反対側の基部側縁に腹面から刃済し加工が施されたもので、基部を折損する。

44は剥片の打面部に背腹両面から剥離角90度前後の刃済し加工が施され、反対側の基部側縁にも同様な加工が施されている。

45は縦長剥片の末端部を基部として、背面右上の側縁をのぞくそれ以外の側縁に腹面から刃済し加工が施されているもので、左側縁上半部の加工はやや粗く鋸歯状を呈する。

46は正面図左上にわずかに一時剥離の側縁を残し、他の側縁に背腹両面から平坦な調整剥離が施されたものである。

47、48、50は剥片の末端部一側縁に、49は打面部側縁にそれぞれ刃済し加工が施されたもので、ナイフ形石器の先端部と考えられる。

52、53は剥片末端部二側縁に刃済し加工が施され、V字状の端部が作り出されている。素材剥片の用い方を考えると、石材は異なるが45と同一形態のナイフ形石器の基部と考えられる。

台形（様）石器：54は剥片の末端部を折り取り、折れ面を打面として、正面図左側縁下半部に平坦な調整加工が、左側縁上半部には腹面から刃済し状の加工が施され、背面右側縁には素材剥片の打面から剥離された小剥

離痕が観察される。斜刃の台形様石器で石材は黒曜石である。

彫器：55は剥片の末端部左側縁から施された楕状剥離とその面を打面として反対側縁に楕状剥離が施されたもので、楕状剥離が交叉する交叉刃型の彫刀面をもつ彫器である。基部は剥片の打面部二側縁に腹面から急絞な刃済し状の加工が施され、V字状に成形されている。石材は凝灰岩である。

搔器：56は剥片のはば全側縁にやや平坦な二次加工が施され、末端部がU字状に成形されたもの。成形後に背面左側縁から腹面に比較的大きな平坦な剥離面が一面設けられている。石材は無斑晶質安山岩である。

削器：57は剥片の背面左側縁に腹面から平坦な加工が施されたもので、両端を欠損する。石材は黒曜石である。58は剥片の背面左側縁に腹面から二次加工が施され、側縁が鋸歯状を呈する。石材は無斑晶質安山岩である。

縦長剥片：59~61は背面剥離面の剥離方向は腹面と同一方向で、打面形態は59、60が切子打面、61は折損して不明である。石材はすべて黒曜石である。

石核：62は凝灰岩の石核で、正面図上側の面にやや打面を集中させて、側面方向に作業面をずらして剥片剥離をおこなった痕跡を残す。剥離された剥片はやや縦に長い剥片だったと考えられる。

63は無斑晶質安山岩の石核で打面転移および作業面転移が頻繁におこなわれたもので、剥離された剥片は多様な形態のものと考えられる。

敲石：64は敲石の破砕片であると考えられるが、器面上に明瞭な敲打痕は観察できない。

ブロック外

主要な遺物は、搔器1点、縦長剥片1点である。

搔器：65は剥片の背面右側縁に腹面から平坦な二次加工が施されたもので、打面部を折損する。石材は無斑晶質安山岩である。

縦長剥片：66は背面が縦面と腹面と同一方向の剥離面で構成され、両端を折損する。石材は黒曜石である。

3) F3ブロック（図7）

主要な遺物は玉髓製の剥片、石核1点、蛇紋岩製の石斧1点、剥片4点、敲石2点である。

玉髓製の剥片：67~70は玉髓製の剥片で、形態はおむね長幅比1:1からやや縦長傾向のものが多く、打面形態は単剥離面打面（67~69）、もしくは2枚程度の剥離面（70）で構成されるものが多い。母岩は數母岩存在する。石核：71は最終的に正面図上側の面を打面として剥片剥離がおこなわれているが、打面に残された剥離面も作業面に残された剥離面もほぼ同じであるため、順次打面と作業面を入れ替えるながら同一形態の剥片を剥離していたことがうかがえる。

石斧：72は正面に縦面が残る両面調整石器で、裏面下端部に正面側からの加工が比較的集中している。上端部を

折損する。正面下端の縦面上に磨り面と考えられる面があるが、明瞭な線状痕は観察できない。

蛇紋岩製の剥片：73～76は蛇紋岩製の剥片である。線状打面もしくは打面を折損したものが多いため。石斧の調整剥片と考えられる。72とは母岩が異なる。

敲石：77は上下両端に敲打痕が観察できるもので、ほぼ中央で二つに折れている。

78は下端方向からの打撃により正面側に接合する剥片が剥離し、上端部を折損したものである。器面に明瞭な敲打痕は観察できない。

5 繩文時代の遺構（図4、図9）

落とし穴：落とし穴が4基、ほぼ斜面に沿って直線状に並んで検出された。18.75mの範囲に、平均6.25mの間隔で配置されている。北側の標高の高いものから1号土坑より4号土坑とする。1号土坑は確認面の大きさが $120 \times 65\text{cm}$ 、深さ75cmで底部には17cmのピットがある。2号

土坑は確認面の大きさが $120 \times 78\text{cm}$ 、深さ90cmで底部には28cmのピットがある。3号土坑は確認面の大きさが $120 \times 67\text{cm}$ 、深さ50cmで底部には15cmのピットがある。4号土坑は確認面の大きさが $110 \times 60\text{cm}$ 、深さ55cmで底部には30cmのピットがある。

6 大久保南遺跡第4次調査の成果

大久保南遺跡の調査では、H8ブロックで、上II最下部文化層（Va層）より黒曜石製のまとまった石器群が出土した。配石遺構が伴い、その周辺に石器、剥片が多く集中した。幅広の縦長剥片の基部に加工を施す基部加工ナイフ形石器と搔器、削器を主体とする石器群である。上II最下部文化層では、これまであまりまとまった石器群が出土していなかったので、野尻湖遺跡群であらたな基準となる資料だと思われる。

1997年の照門台遺跡の調査で、上II最下部が層位的に2分されることが確認され、本遺跡でも上II最下部が2分された。今回のH8ブロックの石器群は、上II最下部の下部に位置づけられるものである。基部加工ナイフ形石器を中心とする石刃ないし縦長剥片の石器群は、大久保南遺跡高遠地点でも環状ブロックからえられてい

る。この石器群は、野尻湖遺跡群でもこれまで断片的に出土していたが、その層位的位置づけなど不明の点が多くあったが、今回の調査ではその位置を確認することができた。

上II最下部の上部には、AT降灰層準が含まれ、昨年度の照門台遺跡の石器群はこの段階を特徴づけるものである。これまで上II最下部文化層は、各種の石器群が含まれ、その年代、編年については不明の点が多くあった。今回の大久保南遺跡の調査では、黒色帯（Vb層）に代表される「台形様石器群」につづく、上II最下部（Va層）の石刃石器群位置づけについて明確にすることができた。この点で、中部地方北部の石器群変遷の層位の基準になっている野尻湖遺跡群の編年を一步前進させる成果といえる。

III 丸谷地遺跡（4次調査）

1 発掘の概要と経過（図16～図20）

信濃町駒波の丸谷地遺跡において、駒鳥居化成の工場に隣接する農地でキノコ工場を建設する計画がもちあがった。丸谷地遺跡では、平成元年、2年に町道落合公園線の建設工事に際して発掘調査がおこなわれ、繩文時代と平安時代の遺構・遺物が多く出土していた。また、平成3年には、町道の南側の農地が駒鳥居化成の資材置き場として造成されることになり、事前の発掘調査がおこなわれ、平安時代住居址が確認されていた。

今回の申請地19,809m²はこれらに隣接していて、本来は遺跡の範囲が広がっていると推定される場所であるが、この農地は丘陵を削平・埋め立てて造成されていた場所だったので、遺構・遺物が存在するかどうか予

測が付かなかった。そのため、遺跡の範囲確認のための試掘調査を平成10年10月13日から10月22日までおこなうこととなった。

試掘調査は申請地のほぼ全域に、試掘グリッドF69を所を設定し、手掘りで試掘をおこない、地質状況、遺構・遺物の有無の確認をおこなった。この結果、町道に隣接した南側に繩文時代の遺物と平安時代の遺構・遺物が極めて多く出土することが判明した。

そのため、試掘調査終了後ただちに本調査を12月16日まで実施した。ここでは本調査を含めた遺物について、その概要を記述する。

2 出土遺物

A 繩文土器（図22-図26、表6、表7）

出土した縄文土器片の総数は、3,307点である。縄文時代早期の押型文土器、表裏縄文土器、轍文土器、無文土器、条痕文土器などがある。

1) 縄文時代早期

押型文土器・格子目文（立野式土器併行）

1-10は格子目文を密接施文する土器である。1、2は外反する口縁部で、口縁部とその下に施文方向を直交させている。格子目が斜めに交わっているために、細い菱形ないし筋鉤形を呈していて、ネガティブ文との関係が問題となるものである。厚手の土器である。1は口縁部の綫方向の施文が4.7cmと幅広である。その下は横方向に施文される。2は、口縁部の横方向の1条の施文が1.5cmと幅が狭い。1と3には、口唇部に刻みを入れている。4-10は脇部破片である。

押型文土器・平行線文（立野式土器併行）

11-16は平行線文を密接施文する土器である。やや厚手の土器である。11-13は外反する口縁部破片で、口唇には刻みが密に入られている。14以降は綫に原体が移動されている。原体の幅は、23.5mmである。16は乳房状の底部である。

押型文土器・山形文1（立野式土器併行）

17-28は山形文が異方向に重複して直接に施文される土器である。やや厚手の土器である。脇土、外反する器形、裏面口縁に山形文が施文される特徴から、立野式土器に併行するものと考えられる。17-18は山形文が綫、ないし横方向に施文されている。

21-28は小ぶりの山形文を横位、斜位、綫位に重複して施文しており、口縁部の裏面にも横位一条の施文がおこなわれている。原体の幅は19.8mmである。

押型文土器・山形文2（福沢式土器）

29-33は山形文を帯状に施文する土器である。すべて脇部破片であり、33が横位であるほかに綫位に施文がおこなわれている。原体の幅は14.6-15.3ないし16.7mmである。29-32は薄手の土器である。

表裏燃糸文土器

34-35は燃糸文が表裏に施文された土器である。34は外反する口縁部破片である。36、37は燃糸文が施文された土器である。

表裏縄文土器

38-45は表裏に縄文が施文される土器である。脇土、外反する器形、狭い幅の裏面の施文などから、立野式併行の土器と推定されるものである。いずれも口縁部破片であり、43、44が直立するのに対して、これ以外のものは強く外反する。裏面の施文の幅は、耳片が小さいために不明であるが、40、41などをみると、口唇より1.6-3.3

cmほどと思われるが、43は少し下まで裏面の施文がおこなわれている。

46、47は表裏に細い無節縄文が施された土器である。縄文土器

48-55は密な縄文を斜位に施文した土器である。脇土、縄文の特徴は、表裏縄文と共通するものと思われる。56は細めの縄文を疊らに施文している。

無文土器

57-59は無文の土器である。黒色で薄手の土器である。

沈線文土器

60、61は口縁にそった沈線の間に、貝殻腹縁文を矢羽根状につけている土器である。薄手の土器である。60は口縁部破片である。61は胴部破片である。

条痕文土器・鶴ヶ島台式土器

62、64は太い沈線で綫位、斜位に区画をおこない、内部に同じ沈線で平行線を充填する土器である。4単位の綫やかな波状口縁で、低い段を有する。口唇には刺突がおこなわれ、その直下の口縁部には無文部がある。内面には横位の条痕がみられる。繊維をやや多く含む。

63は太い沈線で口縁に平行、斜位にくずれた幾何学的な沈線文がえがかれた土器である。沈線文の交点には刺突がおこなわれている。波状口縁で、口唇には刺突がおこなわれている。繊維を含む。

66、67は細い沈線で曲線的な区画をおこない、内部に刺突を充填する土器である。内面には横位の条痕がみられる。繊維を含む。

68、70は細い沈線で直線的な区画をおこない、内部に刺突を充填する土器である。繊維をやや多く含む。

69は刺突列で円形の文様をえがく土器である。口縁部破片で、波状口縁である。繊維をやや多く含む。

その他の条痕文土器

71は横位、斜位の条痕がみられる厚手の土器である。繊維を含み、野鳥式ないし鶴ヶ島台式と考えられる。

72、73は横位の条痕がみられるやや厚手の土器で、繊維を多く含む。

複節縄文土器

74-77は複節の縄文が施された土器である。74、75は口縁部で、76、77は脇部破片である。脇土には繊維をごくわずかに含む。平らに整形された口唇部と脇土の特徴は、あえて比較すれば細久保式土器に共通するものであるが、今回の出土品には細久保式は含まれない。

B 縄文時代の石器（表8-表10）

縄文時代の石器が、845点出土している。その主なものは、石鏃43点で、石材は黒曜石31点、チャート4点、凝灰岩6点、玉髓1点、頁岩1点である。石鏃未成品は

6点で、黒曜石4点、凝灰岩と頁岩が各1点である。ラウンド・スクレイバーは9点で、黒曜石6点、凝灰岩、珪質頁岩、無斑晶質安山岩が各1点である。サイド・スクレイバーは7点、石匙1点、スクレイバー1点、クサビ形石器2点、珪質凝灰質頁岩製の磨製石斧1点、砂岩製の特殊磨石5点、砂岩製6点とかこう岩製1点を含む磨石19点、砂岩製の砥石2点、凹石1点、石皿6点、石核5点などである。このほか、無斑晶質安山岩製の尖頭器が1点あるが、縄文時代早期より古いもの可能性もある。

C 平安時代の遺構（図19、図21）

調査地の東により3軒の竪穴住居址が検出された。隣接地では、第1次調査（1989）で1軒（1号）、第2次調査（1990）で1軒（2号）、第3次調査（1991）で1軒（3号）の住居址が検出されていた。そのため、今回の住居址は4号～6号とした。

4号住居址：4号住居址は発掘区域の南端で町道に接する位置で検出された。北西～南東4.0m、北東～南西3.45mで、ほぼ方形のプランで、かまどは南端のコーナーにあったが、破壊されており保存はよくなかった。この北西側には、長径85cmの大きめのピットがあった。確認面からの床面の深さは、平均20～40cmであった。住居址内には2か所のピットがあり、深さは20～22cmであった。

5号住居址：5号住居址は発掘区域の東端に近いところで検出された。北西～南東5.35m、北東～南西4.95mで、ほぼ方形のプランで、かまどは東端のコーナーからやや南よりにあった。確認面からの床面の深さは、平均19～33cmであった。住居址内には7個の柱穴と思われるピットがあり、深さは41～54cmであった。かまどの西側には、長径84cmの大きな貯蔵用ピットがあった。

6号住居址：6号住居址は4号、5号のやや北側で検出された。南北4.75m、東西5.7mで、少し東西が長い方形のプランで、かまどは北東端のコーナーにあった。かまどは保存が良好であった。確認面からの床面の深さは、平均13～30cmであった。住居址内には6個ほどの柱穴と思われるピットがあり、深さは44～52cmであった。かまどの南側には、直径85cmの大き目の貯蔵用ピットがあつた。

D 平安時代の土器（表8、表9、表11～表13）

平安時代の遺物は3,729点あり、それらはほとんどが4号～6号住居址から出土した。4号住居址454点、5号住居址1,413点、6号住居址が711点、遺構外1,151である。

4号住居址出土の土器

壺は4点で、黒色土器3点と土師器1点がある。壺が8点出土した。

5号住居址出土の土器

壺は26点あり、軟質須恵器12点、黒色土器10点、土師器4点である。黒色土器の碗1点、灰釉陶器の碗1点、土師器の皿1点、壺6点、小型壺4点、片口鉢1点、須恵器1点などが出土した。

6号住居址出土の土器

壺は5点あり、黒色土器4点、土師器1点である。碗は2点で、黒色土器、土師器各1点、灰釉陶器の皿1点、壺2点、小型壺1点、そして羽釜2点などが出土した。

F 住居址出土の土器の所属時期（表12）

壺の土器構成は、点数が少ないがおおむね法量の1/6以上残存しているものの総数で比較すると、4号住居址で黒色土器75%、土師器25%である。また、破片数で見ると、黒色土器48%、土師器50%である。6号住居址もこれに近く、黒色土器80%、土師器20%で、破片数で見ると、黒色土器33%、土師器64%である。これに対して、5号住居址は軟質須恵器46.2%、黒色土器38.4%、土師器15.4%で、破片数で見ると、軟質須恵器25%、黒色土器65%である。

5号住居址出土の土器は、土師器がわずかで軟質須恵器と黒色土器が多く含まれることが特徴である。これは長野県教育委員会（1990）の食器の15期区分にしたがえば、7期末～8期のもの、西暦800年代半の後半と推定される。一方、4号、6号住居址出土の土器は、土師器がわずかで黒色土器が多く含まれることが特徴である。これは、軟質須恵器がなくなる10期以降の状況を示し、6号住居址には11期以降に使用され始める羽釜があることから、おおむね11期ごろ、西暦1000年前後と推定される。

信濃町内でこれまでに報告された平安時代遺跡では、5号住居址に近いのが仲町遺跡1・2号住居址、大道下遺跡（第4次）1・3・4号住居址である。4号・6号住居址に近いのは、丸谷地1号住居址、2号住居址などである。

3 成 果

丸谷地遺跡の調査では、予想以上に大量の遺物が出土した。調査地がこの遺跡の中心部にははあたったと考えられる。縄文時代では、ほぼ全域から縄文土器と石器が出土した。平安時代では、3軒の住居址が調査地の東部に確認され、多くの土器が出土した。

縄文土器は、早期の格子目文、山形文、平行線文などの押型文土器、表裏縄文土器、沈線文土器、鵜ヶ島台式土器などの条痕文土器などが出土した。とりわけ、一番点数の多い古手の押型文土器と表裏縄文土器は、1994年、95年に発掘した信濃町の市道遺跡の発掘状況と似て

おり、北信地方では注目すべき出土例である。

平安時代では、3軒の住居址が検出され、この遺跡で6軒の住居址があったことが判明した。これら6軒は、かなり近い位置関係にある。これまでの信濃町内の発掘では、平安時代住居址が複数あつまつて確認された遺跡はきわめて少なく、丸谷地遺跡の6軒の確認例はこの地

域内では異例となっている。これらの住居址は、同時期のものではなく、少なくとも100年間以上にわたってこの丸谷地遺跡にはひとがて、住み続けていて、信濃町内ではかなり古くから開けた集落であったことを意味している。

IV 町内における試掘調査

1 大久保A遺跡（図27）

信濃町柏原大久保の大久保A遺跡において、土盛りをおこなうことになり、遺跡の範囲確認のための試掘調査をおこなった。用地内に1×2mを基本とする調査溝13か所を設定した。調査はすべて手掘りでおこない、遺構・遺物の存在が予想される上部野尻ローム層まで掘削した。この調査で計26点の出土品を得た。

出土品の主なものは、縄文時代草創期の有茎尖頭器、平安時代土器などであった。この結果、調査地には、縄文草創期以降の遺物が分布することが確認されたが、その密度はそれほど高くないことも予想される。この造成地は土盛り後、当面は開発の計画等ないとのことである。

2 東裏遺跡（図28）

信濃町柏原字東裏の信越病院の拡張工事の計画があり、その予定地内に東裏遺跡の遺構・遺物が分布するかどうか調べる目的で、試掘調査をおこなった。調査は、1×2mを基本とする5グリッドを予定地内に設定し、すべて手掘りで試掘をおこなった。遺構・遺物の存在が

予想される上部野尻ローム層まで掘削した。この調査で、2点の出土品を得た。

出土品は、平安時代の土器であった。この結果、調査地には平安時代の遺物が分布することが確認されたが、その密度は極めて低く、遺構の存在も予想されない。

3 上ノ原遺跡（図29）

信濃町柏原字上町で個人の車庫の設置計画があり、その予定地内の埋蔵文化財の記録保存のために発掘調査をおこなった。調査は、すべて手掘りでおこなった。遺

構・遺物の存在が予想される上部野尻ローム層まで掘削したが、出土遺物はなかった。

V まとめ

平成10年度は、個人住宅建設や遺跡範囲確認のための試掘調査が多くおこなわれた。これらの調査によって、以下のような成果をえた。

- 1 大久保南遺跡では、後期旧石器時代前半の基部調整のナイフ形石器に代表される黒曜石製石器群が良好な状態で出土した。
- 2 丸谷地遺跡では、縄文時代早期前半の押型文土器の土器群がまとまって出土した。格子目文、平行線文、

山形文、および表裏縄文土器という組成は、押型文土器群の中では古層の様相を呈している。

- 3 丸谷地遺跡では、平安時代の3軒の住居址が検出され、多くの土器片等が含まれていた。丸谷地遺跡は、古くから開けた集落であることが判明した。
- 4 個人住宅等の小規模開発であっても、信濃町の遺跡は遺物包含層が浅いので、埋蔵文化財には大きな影響があることが明らかになった。

文献

- 野尻湖人類考古グループ（1993）仲町遺跡、第6回陸上
発掘の考古学的成果。野尻湖博物館研究報告、1号、
113-166。
- 長野県教育委員会（1990）松本市内その1、紹論編。中
央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4。
- 中村由克（1988）柏原の原始をさぐる。長野県上水内郡
信濃町「柏原町区誌」117-145。
- 中村由克ほか編（1997）大道下遺跡（4次）ほか信濃町
内遺跡発掘調査報告書、押型文土器と平安時代の遺
跡。信濃町教育委員会

表1 平成10年度 信濃町内の遺跡の発掘調査一覧

No.	遺跡名	原因	遺跡の時代	面積	調査期間	出土点数	備考
1	大久保南 (個人住宅)	個人住宅	旧石器・縄文	450m ²	4/10~5/27	799点	旧石器の石器集中区を2か所確認。 約2.7万年前の黒曜石製のナイフ形 石器など石刀主体の石器群が出土
2	上ノ原 (個人車庫)	個人車庫	旧石器	30m ²	5/7	0点	遺跡にからない
3	丸谷地 (試掘)	えのき工場	縄文・平安	19,809m ² (~12/16)	10/13~10/22 (~12/16)	9,612点	試掘は10/22まで。 補足発掘は11/11~12/16
4	東根 (試掘)	信越病院	平安	125m ²	10/29	2点	遺跡の中心からはずれる
5	大久保A (試掘)	埋立て地	旧石器 縄文・平安	700m ²	11/9~11/12	26点	平安時代の土器が出土。 有茎尖頭器が出土。
6	西岡A	道の駅	旧石器・縄文	800m ²	4/10~4/20	10數点	刺片が少し出土したが、遺跡の中 心からはずれていたと思われる。
7	上山桑A	県道 杉野沢黒姫(停)	旧石器 縄文・平安	2,000m ²	5/11~9/2 10/23	1,459点	縄文早期の枕輪文土器が出土。 約7,000年前ごろ。
8	針ノ木	町道 柏原水穴線	旧石器 縄文・平安	1,800m ²	9/3~11/10 12/14	2,527点	平安時代の土器が出土。 縄文時代草創期の有茎尖頭器 が出土。
9	上ノ原 (7次)	町道 大久保大平線	旧石器・縄文	300m ²	10/2~11/6 12/3	83点	木葉形尖頭器、刺片、石核 が出土。
10	野尻一里塚	国道18号線 バイパス	近世	200m ²	12/10~12/17	0点	一里塚製作時の土の重ね方を調 査。道路の一部も調査。



図1 平成10年度信濃町内遺跡の調査位置図



図2 大久保南遺跡個人住宅地点の位置図

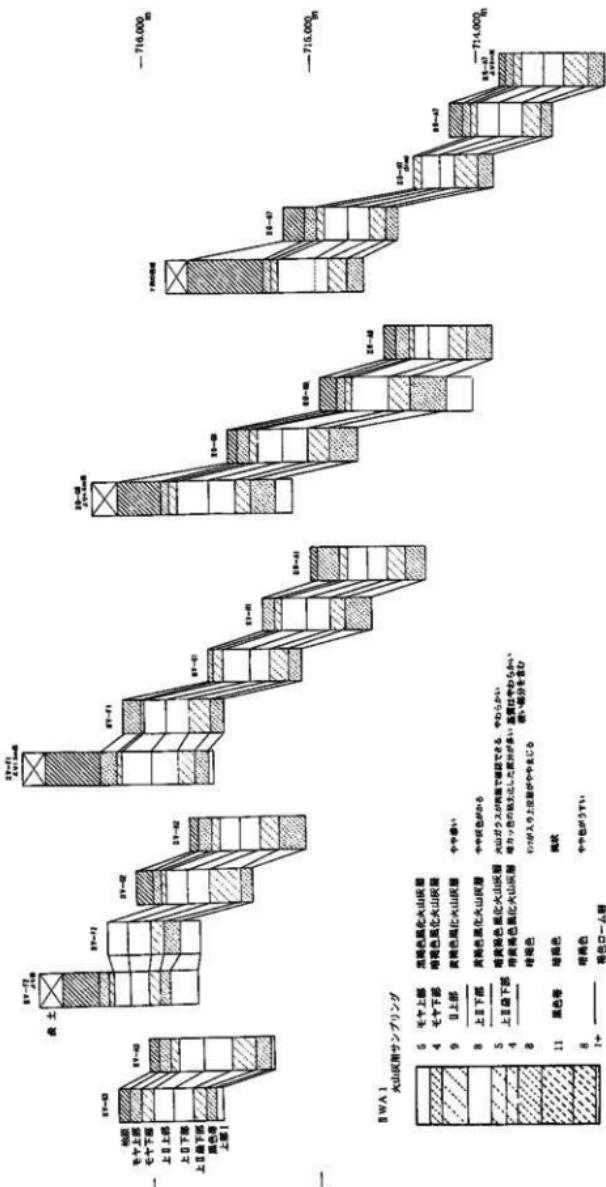


図4 大久保南遺跡個人住宅地点の地形

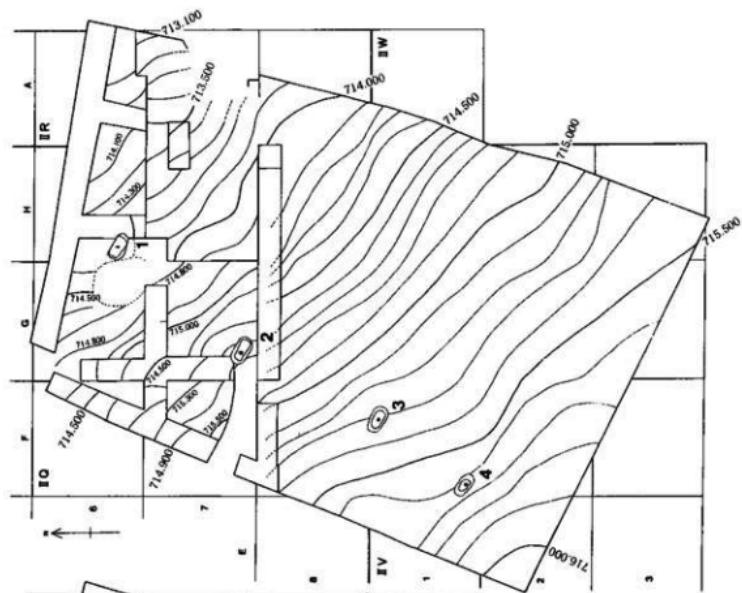
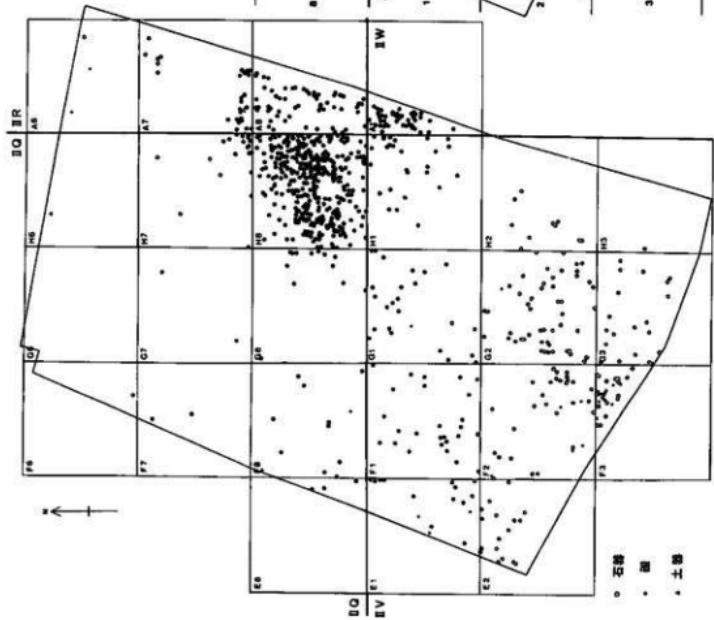


図5 大久保南遺跡個人住宅地点の出土遺物(全点プロット)



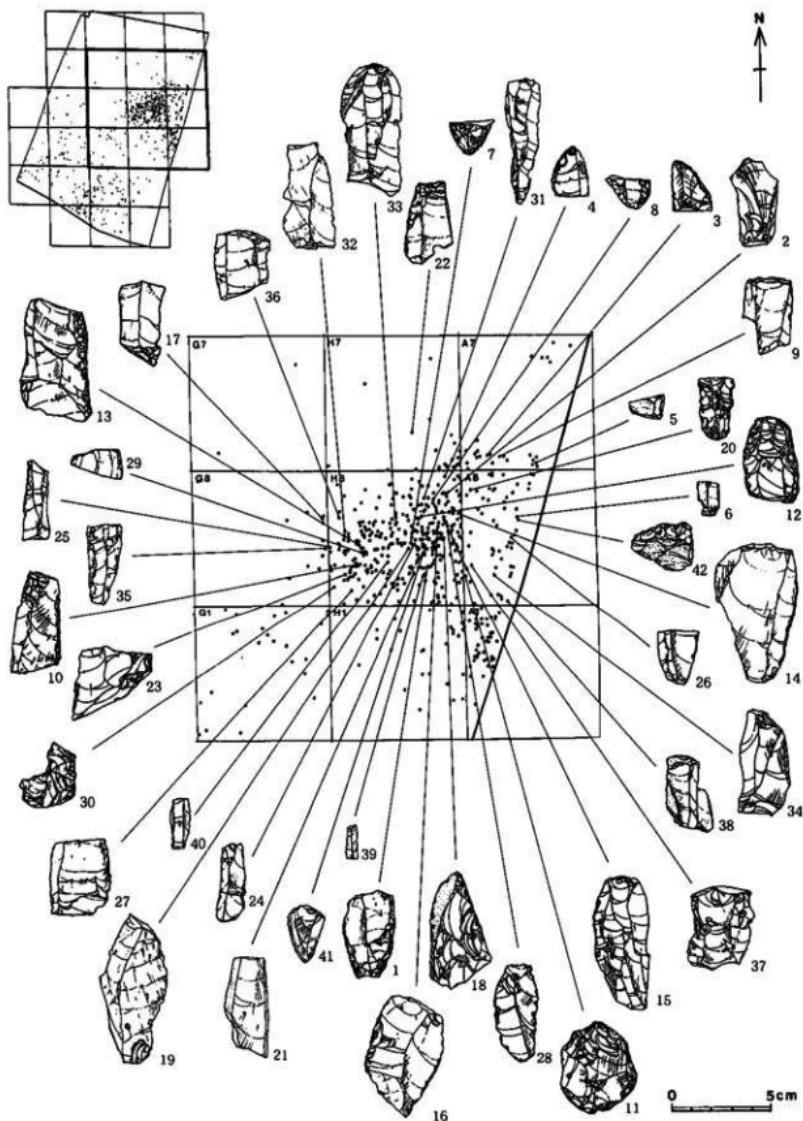


図6 大久保南遺跡H8ブロックの石器

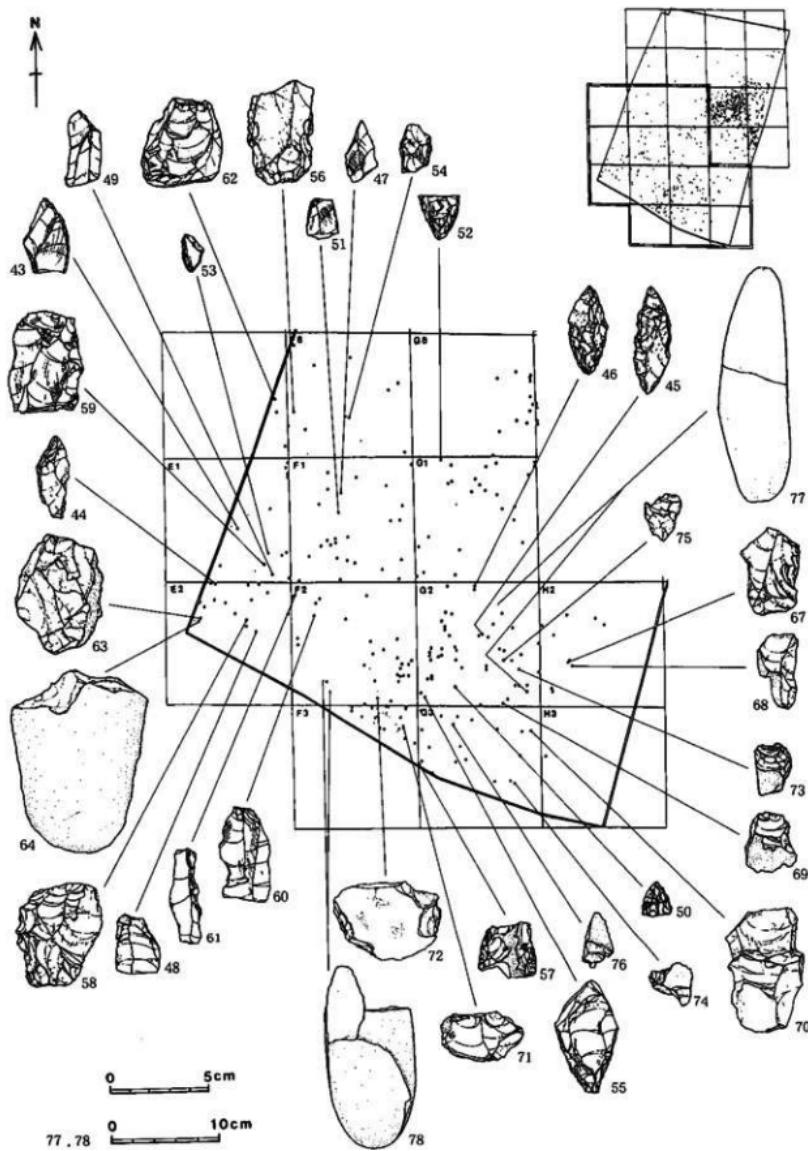


図7 大久保南遺跡E2ブロック・F3ブロックの石器

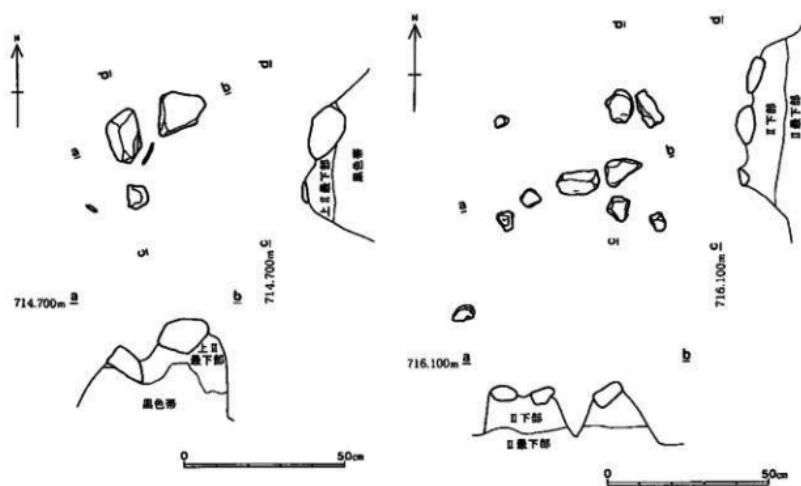


図8 旧石器時代の遺構 (左) 配石遺構 [H8]、(右) 磚群 [F3]

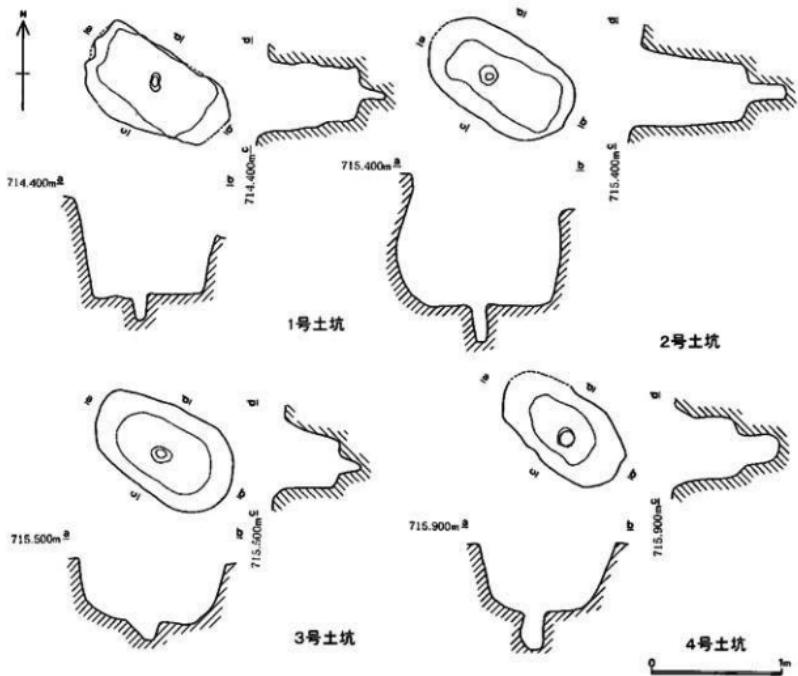


図9 縄文時代の遺構 落とし穴



図10 大久保南遺跡個人住宅地点出土の石器（1）

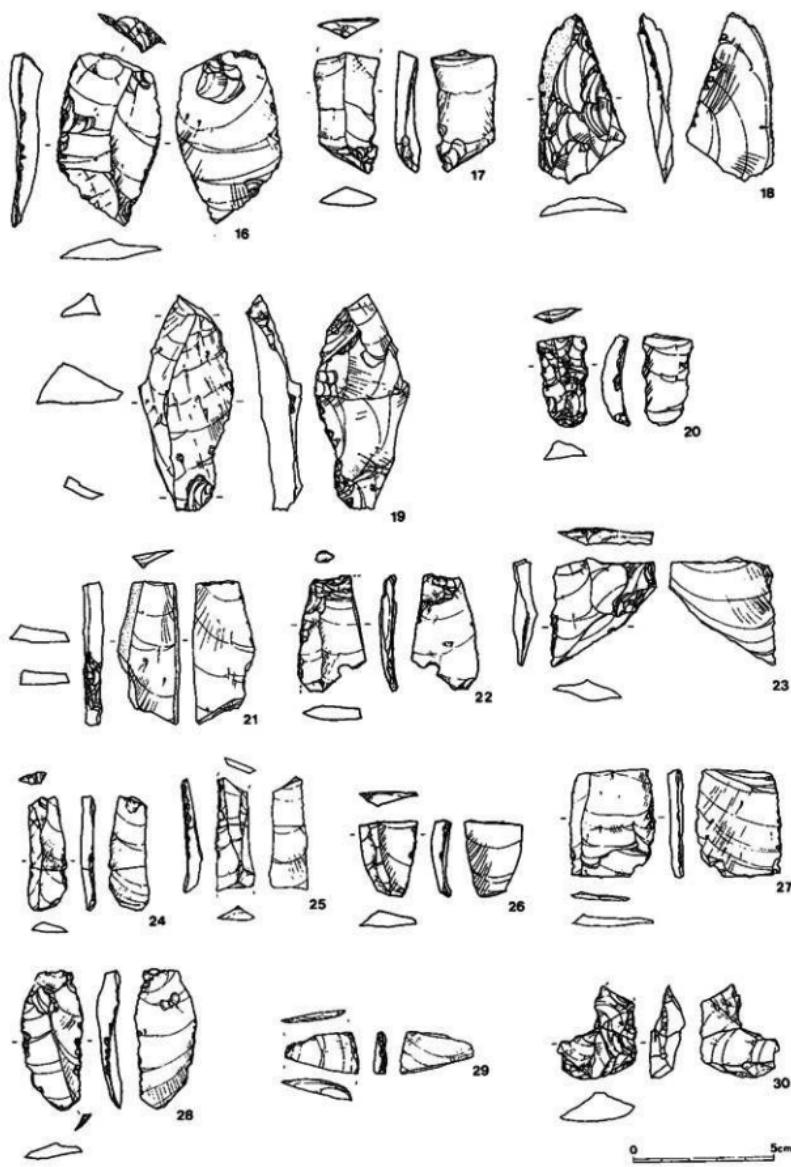


図11 大久保南遺跡個人住宅地点出土の石器（2）

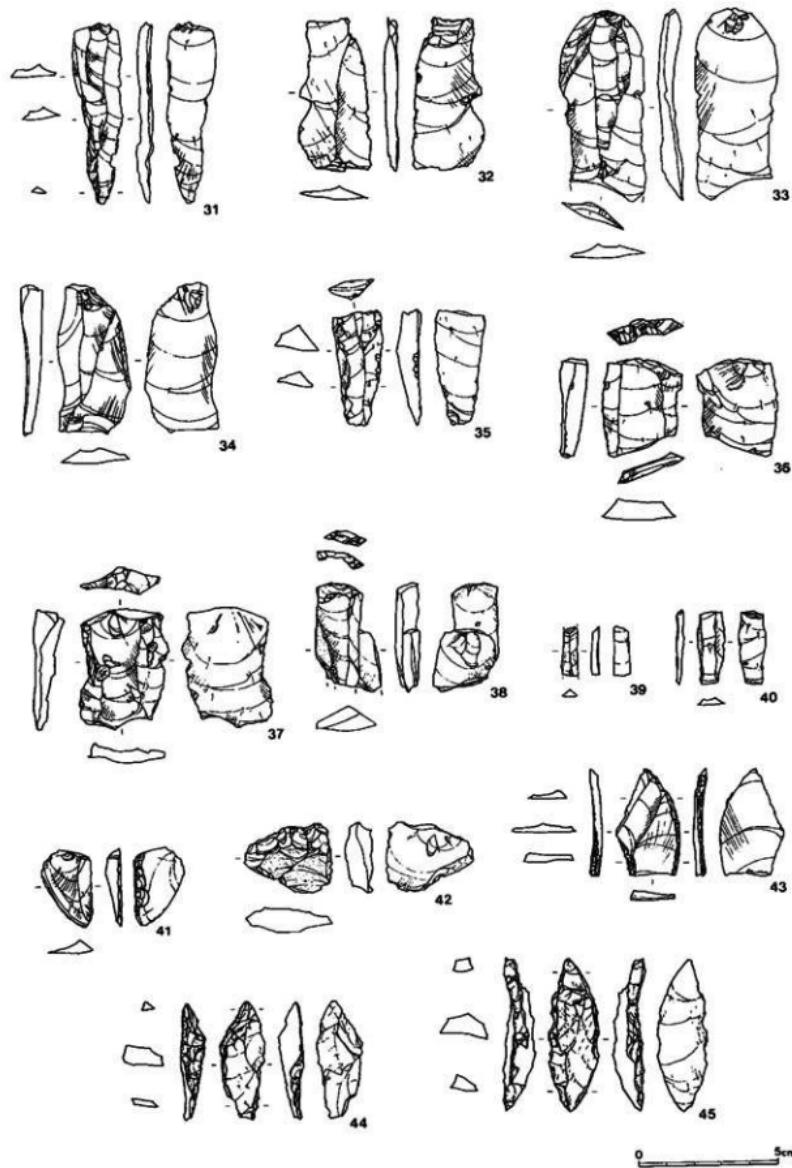


図12 大久保南遺跡個人住宅地点出土の石器（3）

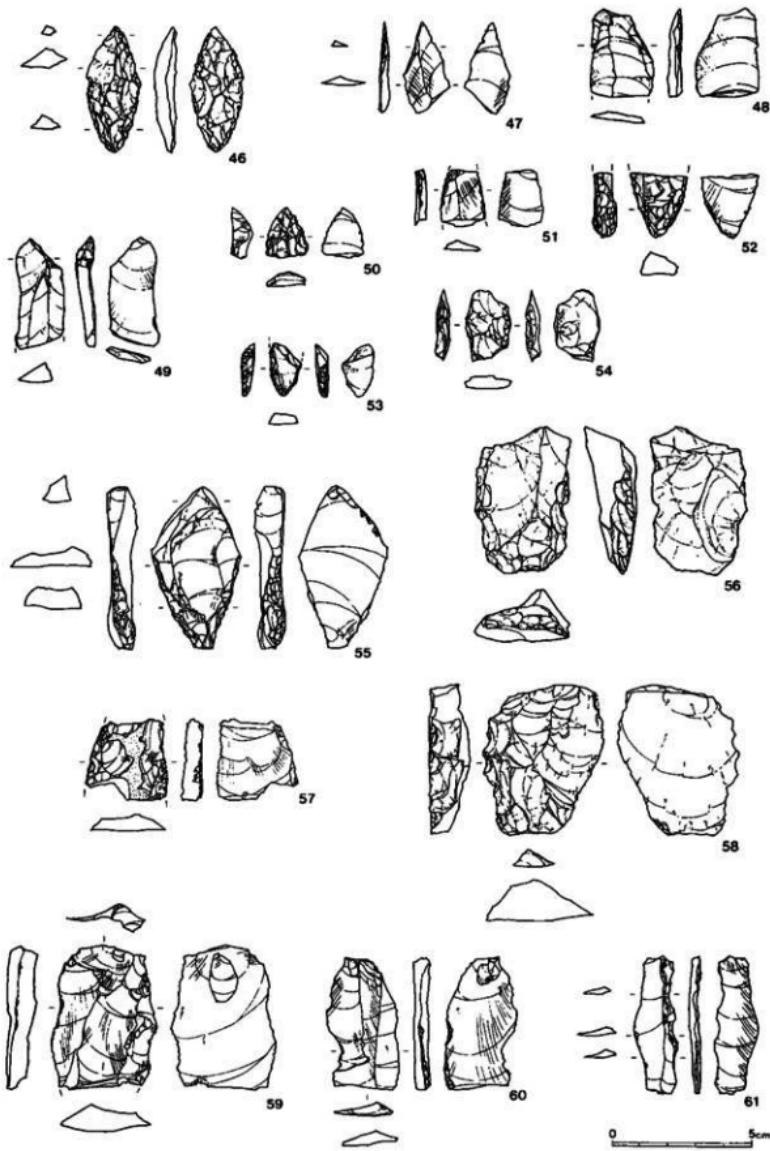


図13 大久保南遺跡個人住宅地点出土の石器（4）

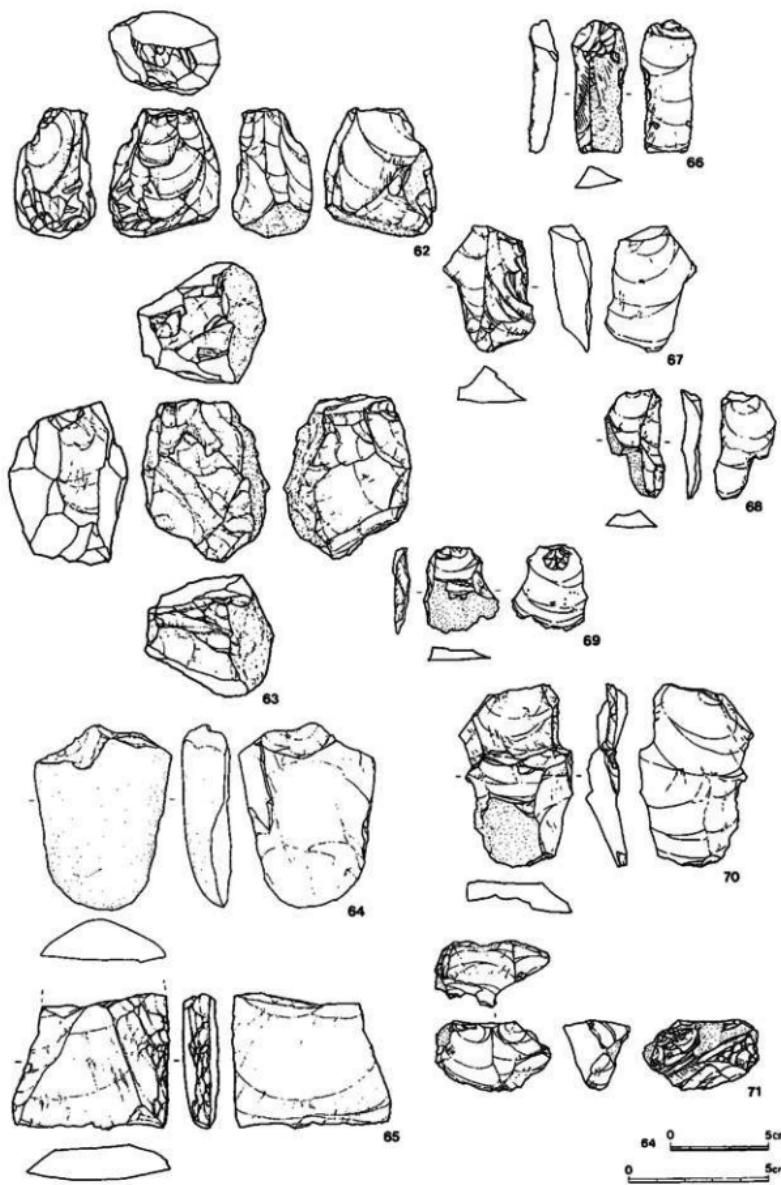


図14 大久保南遺跡個人住宅地点出土の石器（5）

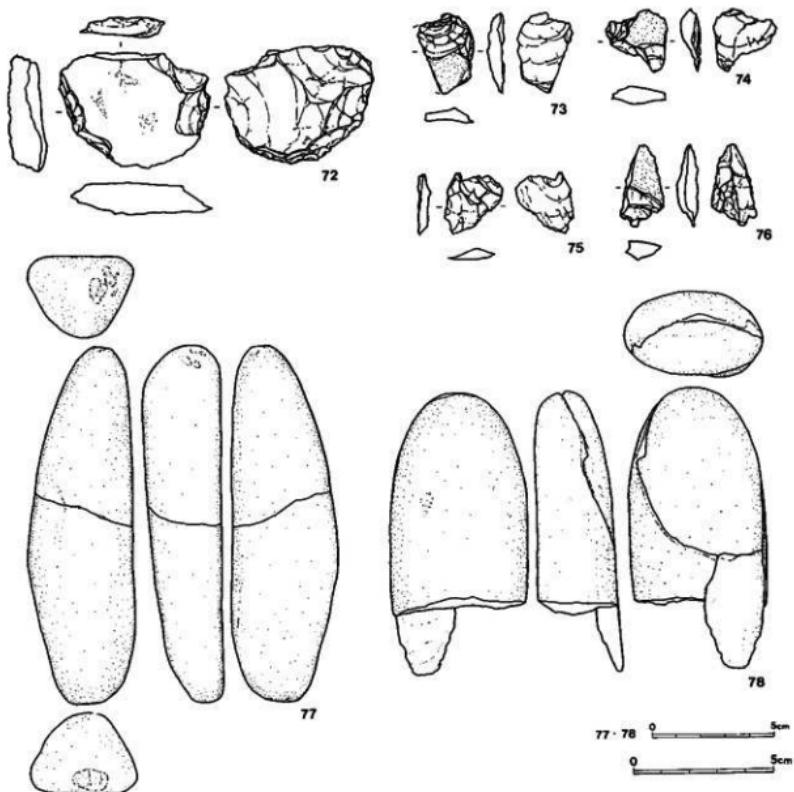


図15 大久保南遺跡個人住宅地点出土の石器（6）

表2 大久保南遺跡個人住宅地点出土の石器一覧（1）

No	名称	遺物番号	地層	石材	長さ	幅	厚さ	重量	備考
1	ナイフ形石器	980KM II QH8-291	上Ⅱ最下部上	黒曜石	4.5	2.7	0.8	7.7	
2	ナイフ形石器	980KM II QH8-22	モヤ下部	黒曜石	4.4	2.5	0.6	5.1	微細剝片痕
3	ナイフ形石器	980KM II RA7-15	上Ⅱ中部	黒曜石	2.6	2.1	0.5	2.2	
4	ナイフ形石器	980KM II QH8-21	上Ⅱ上部	黒曜石	2.6	1.9	0.6	2.4	
5	ナイフ形石器	980KM II RA7-24	上Ⅱ最下部上面	黒曜石	1.3	1.9	0.6	1.5	
6	ナイフ形石器	980KM II RA8-15	上Ⅱ最下部	黒曜石	1.7	1.2	0.4	0.9	
7	ナイフ形石器	980KM II QH8-57	擾乱	黒曜石	1.7	2.3	0.7	2.1	
8	ナイフ形石器	980KM II QH8-19	上Ⅱ上部上	黒曜石	1.6	2.3	0.6	1.7	
9	彫器	980KM II RA7-17	上Ⅱ最下部上	黒曜石	4.0	2.5	0.7	7.3	
10	彫器	980KM II QH8-113	上Ⅱ中部	黒曜石	5.4	2.5	1.2	15.1	
11	彫器	980KM II QH8-127	上Ⅱ下部（下で）	黒曜石	4.8	4.0	1.3	21.6	
12	削器	980KM II QH8-34	モヤ下部	黒曜石	4.5	2.8	0.8	10.7	
13	削器	980KM II QH8-94	上Ⅱ中部下	黒曜石	6.4	3.6	1.0	19.5	
14	削器	980KM II QH8-25	上Ⅱ下部上	黒曜石	7.3	4.2	0.7	19.2	
15	削器	980KM II QH8-240	上Ⅱ最下部上	黒曜石	6.8	2.9	1.0	47.6	
16	削器	980KM II QH8-245	上Ⅱ最下部下	黒曜石	6.2	3.8	1.0	16.3	
17	削器	980KM II QH8-9	上Ⅱ上部下	黒曜石	4.3	2.4	0.7	6.4	
18	削器	980KM II QH8-308	上Ⅱ最下部（中～下部）	黒曜石	6.0	3.1	0.4	8.5	
19	削器	980KM II QH8-317	上Ⅱ最下部（中～上部）	黒曜石	7.7	3.4	1.5	25.0	
20	抉入石器	980KM II RA8-11	モヤ下部	黒曜石	3.3	1.7	0.7	3.8	
21	抉入石器	980KM II QH8-121	上Ⅱ上部	黒曜石	5.1	2.3	0.6	8.2	
22	微細剝離痕のある剝片	980KM II QH8-4	モヤ上部	黒曜石	4.1	2.5	0.5	4.9	
23	微細剝離痕のある剝片	980KM II QH8-105	上Ⅱ中部	黒曜石	3.9	3.8	0.8	8.3	
24	微細剝離痕のある剝片	980KM II QH8-204	上Ⅱ下部（下で）	黒曜石	4.0	1.4	0.5	2.3	接合
25	微細剝離痕のある剝片	980KM II QH8-103	上Ⅱ中部	黒曜石	4.1	1.4	0.5	2.5	接合
26	微細剝離痕のある剝片	980KM II QH8-324	上Ⅱ最下部上	黒曜石	4.1	1.4	0.5	2.5	接合
27	微細剝離痕のある剝片	980KM II RA8-18	上Ⅱ中部	黒曜石	2.7	2.0	0.6	2.8	
28	微細剝離痕のある剝片	980KM II QH8-144	上Ⅱ中部	黒曜石	5.8	3.0	0.4	7.0	接合
29	微細剝離痕のある剝片	980KM II QH8-114	上Ⅱ中部	黒曜石	5.0	2.3	0.6	5.3	
30	微細剝離痕のある剝片	980KM II QH8-241	上Ⅱ最下部上	黒曜石	5.0	2.3	0.6	5.3	
31	微細剝離痕のある剝片	980KM II QH8-92	上Ⅱ上部下	黒曜石	1.4	2.7	0.4	1.7	
32	縦長剝片	980KM II QH8-153	上Ⅱ中部～上Ⅱ下部	黒曜石	3.3	2.8	1.1	6.4	接合
33	縦長剝片	980KM II QH8-303	上Ⅱ最下部上面	黒曜石	3.3	2.8	1.1	6.4	接合
34	縦長剝片	980KM II QH8-15	上Ⅱ下部（中）～上Ⅱ中部	黒曜石	6.4	1.8	0.5	4.5	
35	縦長剝片	980KM II QH8-42	上Ⅱ中部	黒曜石	4.2	3.2	0.8	5.9	
36	縦長剝片	980KM II QH8-237	上Ⅱ最下部上	黒曜石	6.8	3.1	0.7	12.8	
37	縦長剝片	980KM II RA8-29	上Ⅱ中部	黒曜石	5.3	2.5	0.7	8.0	
38	縦長剝片	980KM II QH8-4	擾乱	黒曜石	4.1	1.8	0.7	4.2	
39	縦長剝片	980KM II QH8-233	上Ⅱ最下部上	黒曜石	3.4	2.8	0.9	9.2	折れたもの
40	縦長剝片	980KM II RA8-24	上Ⅱ下部中	黒曜石	5.4	2.6	0.5	10.4	
41	剝片	980KM II QH8-321	上Ⅱ最下部上	黒曜石	3.9	2.4	0.8	6.2	接合
42	剝片	980KM II RA8-53	上Ⅱ最下部（下で）	黒曜石	1.2	0.6	0.3	0.2	
43	ナイフ形石器	980KM II QH8-123	上Ⅱ下部下	黒曜石	2.6	1.0	0.3	0.5	
44	ナイフ形石器	980KM II QH8-210	上Ⅱ下部下	黒曜石	2.6	1.0	0.3	0.5	
45	ナイフ形石器	980KM II QH8-62	上Ⅱ中部～下部上	黒曜石	2.6	1.8	0.5	2.1	加工有
46	ナイフ形石器	980KM II RA8-42	上Ⅱ中部	黒曜石	2.6	3.1	0.9	6.0	
47	ナイフ形石器	980KM II VE1-6	モヤ下部	黒曜石	3.8	2.3	0.3	3.2	
48	ナイフ形石器	980KM II VE2-1	安山岩	4.2	1.7	0.8	5.2		
49	ナイフ形石器	980KM II VG2-22	安山岩	5.5	1.8	1.0	9.7		
50	ナイフ形石器	980KM II VG2-3	安山岩	4.5	2.0	0.7	5.9		
51	ナイフ形石器	980KM II VF1-5	安山岩	3.1	1.7	0.3	1.1		

表3 大久保南遺跡個人住宅地点出土の石器一覧（2）

48	ナイフ形石器	980KM II VE2-10	上Ⅱ上部下～ 上Ⅱ中部上	黒曜石	3.2	2.2	0.4	2.7	
49	ナイフ形石器	980KM II VE1-15	上Ⅱ下部下～ 上Ⅱ中部擾乱	黒曜石	3.8	1.9	0.6	3.3	
50	ナイフ形石器	980KM II VG2-40	上Ⅱ上部	黒曜石	1.8	1.5	0.7	1.5	
51	ナイフ形石器	980KM II VF1-8	上Ⅱ上部	黒曜石	2.0	1.5	0.4	1.2	
52	ナイフ形石器	980KM II VG1-1	上Ⅱ上部	黒曜石	2.2	2.1	0.8	3.7	
53	ナイフ形石器	980KM II VE1-11	上Ⅱ中部上	黒曜石	2.0	1.2	0.4	0.8	
54	台形（梯）石器	980KM II QF8-10	上Ⅱ中部	黒曜石	2.5	1.6	0.5	1.9	
55	砲器	980KM II VG2-39	モヤ下部擾乱	凝灰岩？	5.8	3.2	0.9	17.2	
56	擂器	980KM II QF8-6	上Ⅱ中部	安山岩	5.4	3.4	1.4	25.8	
57	削器	980KM II VG3-13	モヤ上部	黒曜石	2.9	2.9	0.7	5.9	
58	削器	980KM II VE2-12	上Ⅱ上部	安山岩	5.4	4.3	1.4	33.4	
59	縦長剥片	980KM II VE1-14	上Ⅱ下部上～ 上Ⅱ中部	黒曜石	5.2	3.8	1.0	16.3	
60	縦長剥片	980KM II VF2-7	上Ⅱ上部下	黒曜石	4.9	2.5	0.6	6.3	
61	縦長剥片	980KM II VF2-2	上Ⅱ擾乱	黒曜石	4.9	1.5	0.3	2.1	
62	石核	980KM II QE8-1	上Ⅱ中部上		4.6	4.1	2.8	60.4	
63	石核	980KM II VE2-14	上Ⅱ下部上～ 上Ⅱ中部	安山岩	6.0	5.0	4.0	124.2	
64	敲石	980KM II VE2-15	上Ⅱ下部上～ 上Ⅱ中部	砂岩	9.3	7.0	2.5	168.3	
65	擂器	980KM II QG7-1	上Ⅱ上部		4.7	5.7	1.3	44.3	
66	縦長剥片	980KM II RA6-3	モヤ下部	黒曜石	4.7	2.0	0.9	7.9	
67	剥片	980KM II VH2-6	上Ⅱ上部	玉髓	4.5	3.2	1.3	15.7	
68	剥片	980KM II VH2-7	上Ⅱ中部上	玉髓	3.8	2.1	0.7	4.0	
69	剥片	980KM II VC2-42 980KM II VH1-15 980KM II VC2-5	上Ⅱ上部 上Ⅱ上部 上Ⅱ擾乱	玉髓	3.1	2.7	0.5	4.1	
70	剥片	980KM II VG3-20	上Ⅱ最下部	珪質頁岩？	6.6	4.0	1.0	27.0	
71	石核	980KM II VF3-11	モヤ下部	玉髓	2.6	4.3	2.2	21.4	
72	石斧	980KM II VF3-37	上Ⅱ最下部上	蛇紋岩	4.2	5.5	1.3	37.4	
73	剥片	980KM II VG2-29	上Ⅱ上部	蛇紋岩	2.8	2.0	0.6	3.4	
74	剥片	980KM II VG3-7	上Ⅱ上部	蛇紋岩	2.3	2.2	0.6	2.4	
75	剥片	980KM II VC2-30	上Ⅱ中部	蛇紋岩	2.2	2.0	0.3	1.4	
76	剥片	980KM II VG3-1	上Ⅱ上部	蛇紋岩	2.9	1.5	0.6	2.8	
77	敲石	980KM II VG3-4 980KM II VG2-46	上Ⅱ中部	砂岩	21.7	6.5	4.8	899.3	接合
78	敲石	980KM II VF2-26, 24, 32	上Ⅱ下部中・中部	安山岩	16.7	8.2	4.8	817.0	接合

表5 大久保南遺跡個人住宅地点の遺物点数内訳

グリッド	石器	土器	織	その他	合計
II R	A6	1		2	3
	A7	26			26
	A8	57		1	59
II Q	E8	3			3
	F6	1			1
	F7	2			2
	F8	11		2	13
	G7	2			2
	G8	13			13
	H6		1		1
	H7	21			21
	H8	338		8	虞 1 347
II V	E1	12	1	3	16
	E2	18		2	20
	F1	27			27
	F2	35		4	39
	F3	17		14	31
	G1	24		1	25
	G2	49		1	50
	G3	18		2	20
	H1	27			27
	H2	10			10
	H3	1			1
II W	A1	42			42
	計	755	2	40	2 799

表4 大久保南遺跡個人住宅地点の出土遺物点数

石器	755
織	40
土器	2
その他（炭ほか）	2
合計	799

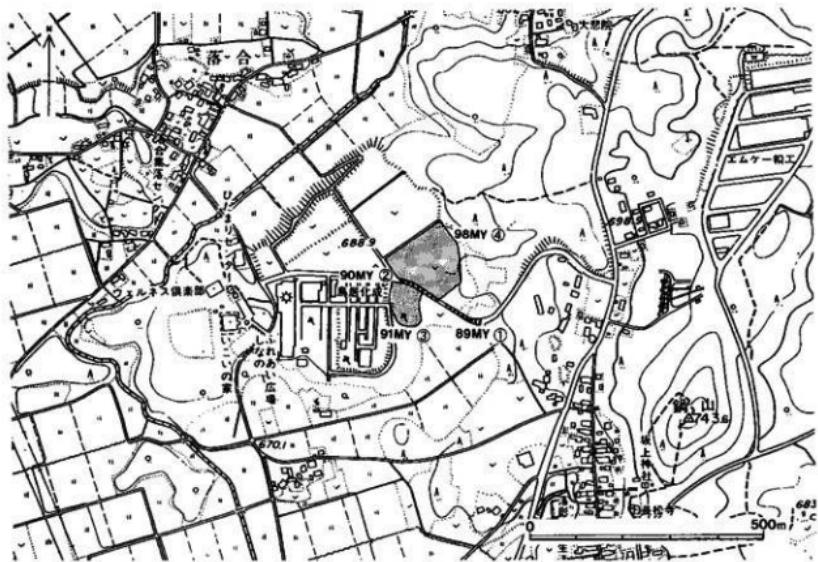
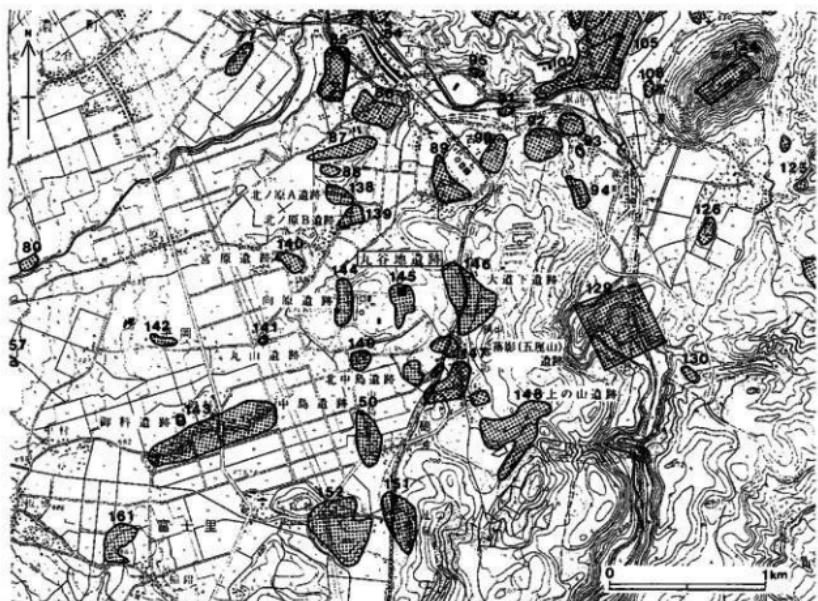


図16 九谷地遺跡の位置図

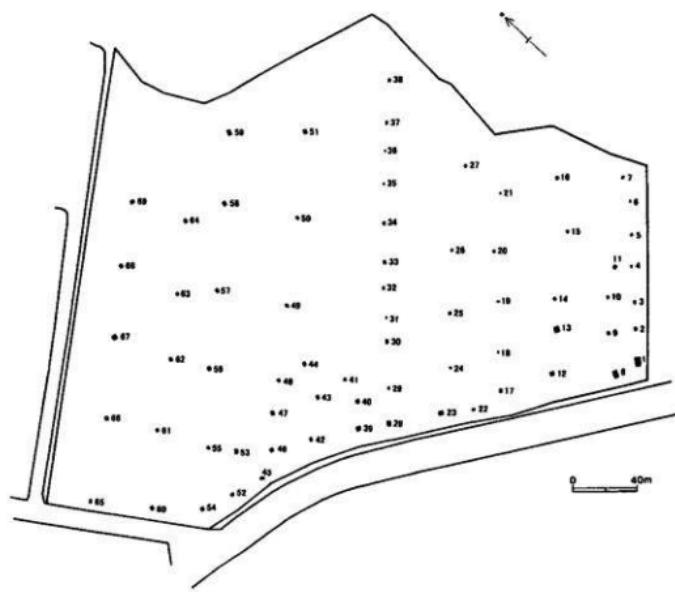


図17 九谷地遺跡の試掘グリッド位置図

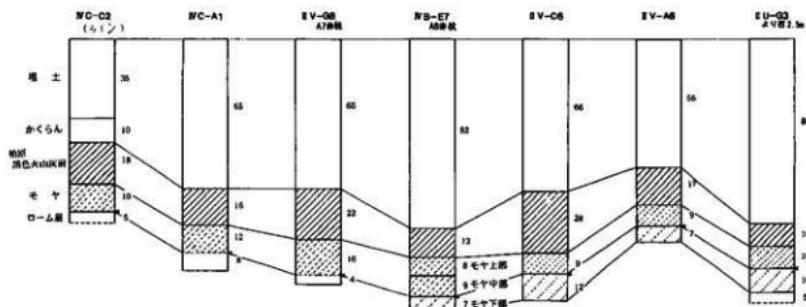


図18 九谷地遺跡の地層 ▲印は発掘グリッドの到達層準

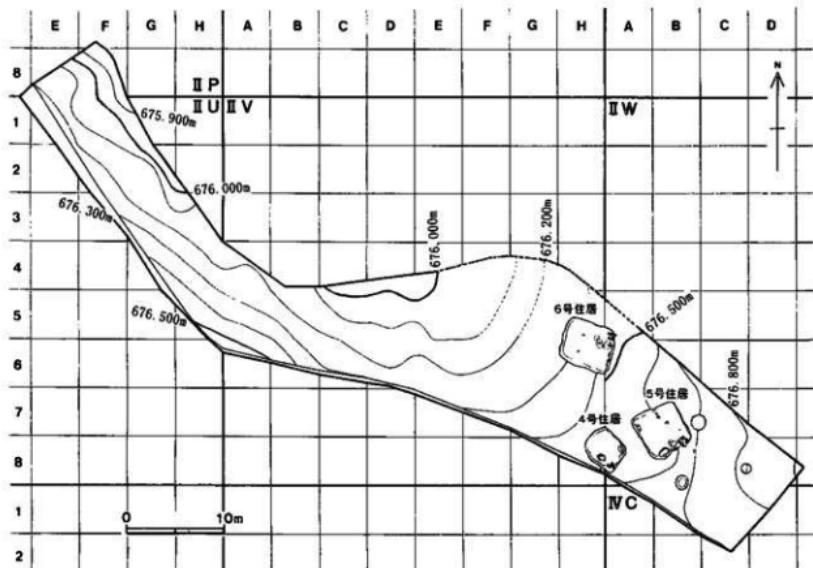


図19 丸谷地遺跡（4次）の調査地の地形

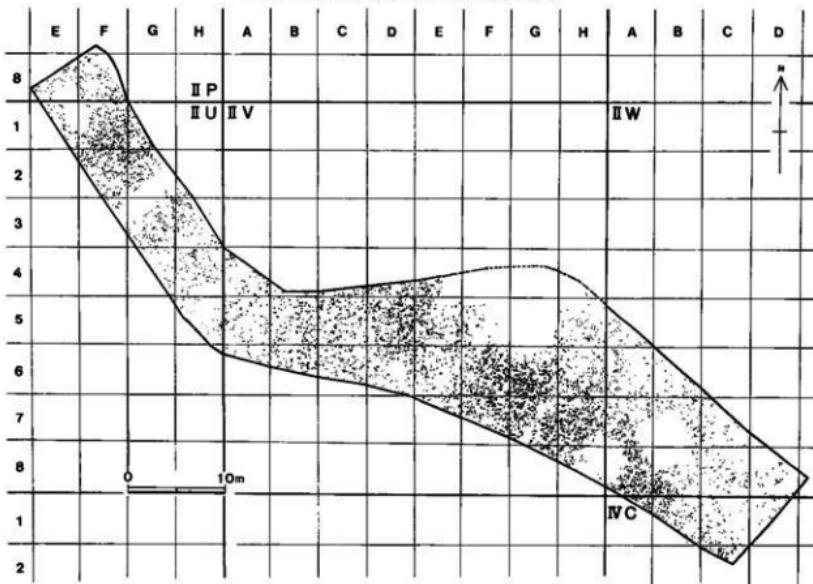


図20 丸谷地遺跡（4次）の出土遺物（全点プロット）

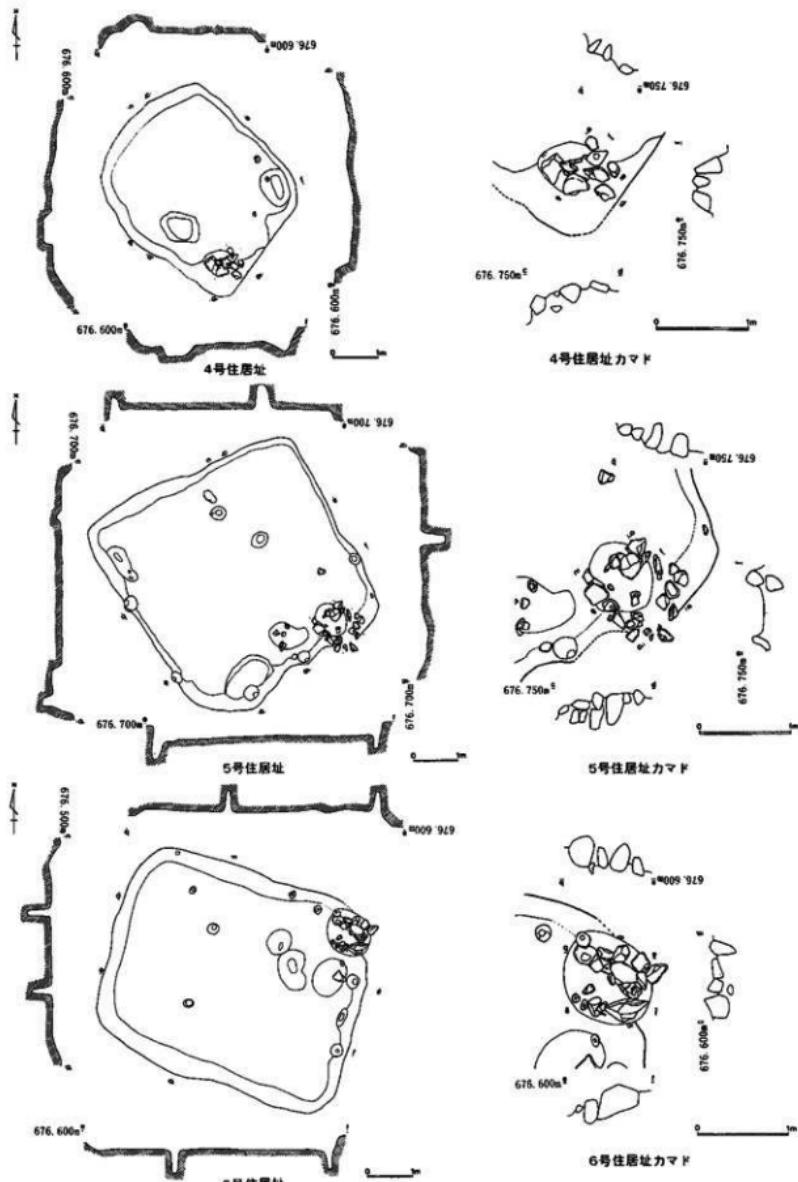


図21 九谷地遺跡（4次）の平安時代住居址

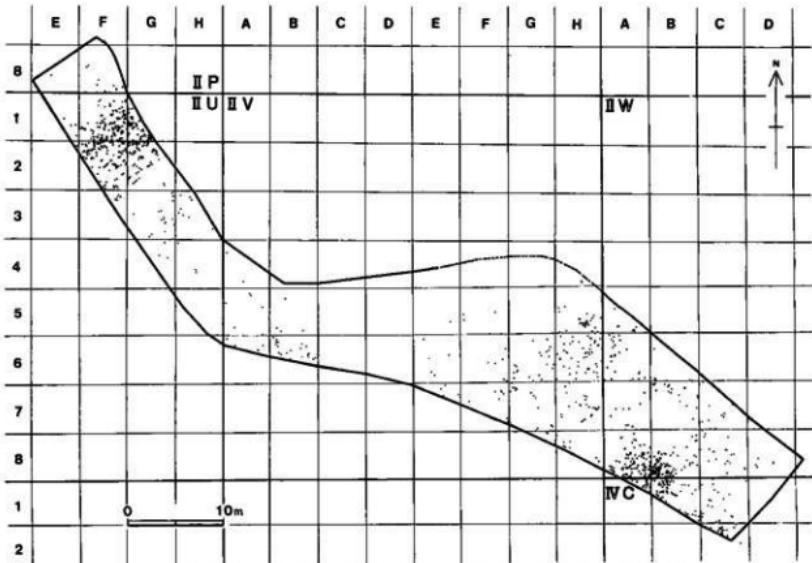
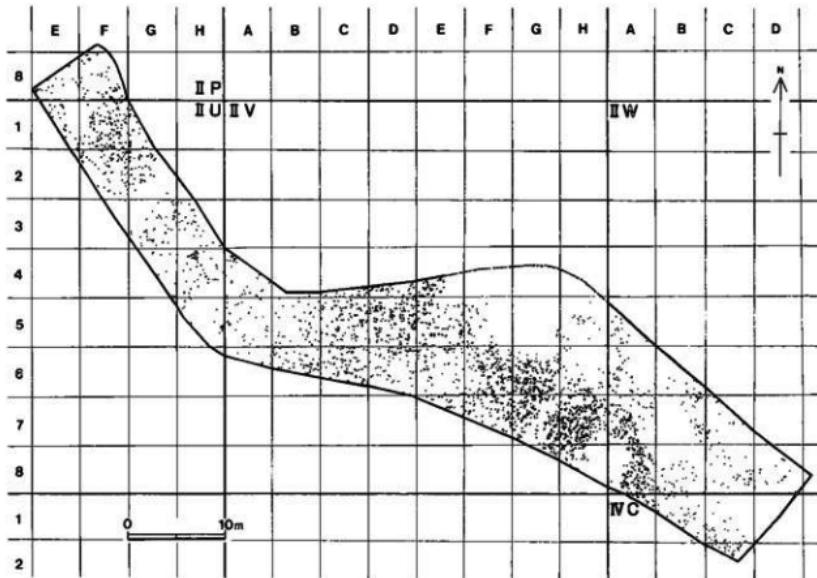


図22 丸谷地遺跡（4次）の遺物分布図 (上) 縄文土器、(下) 平安土器

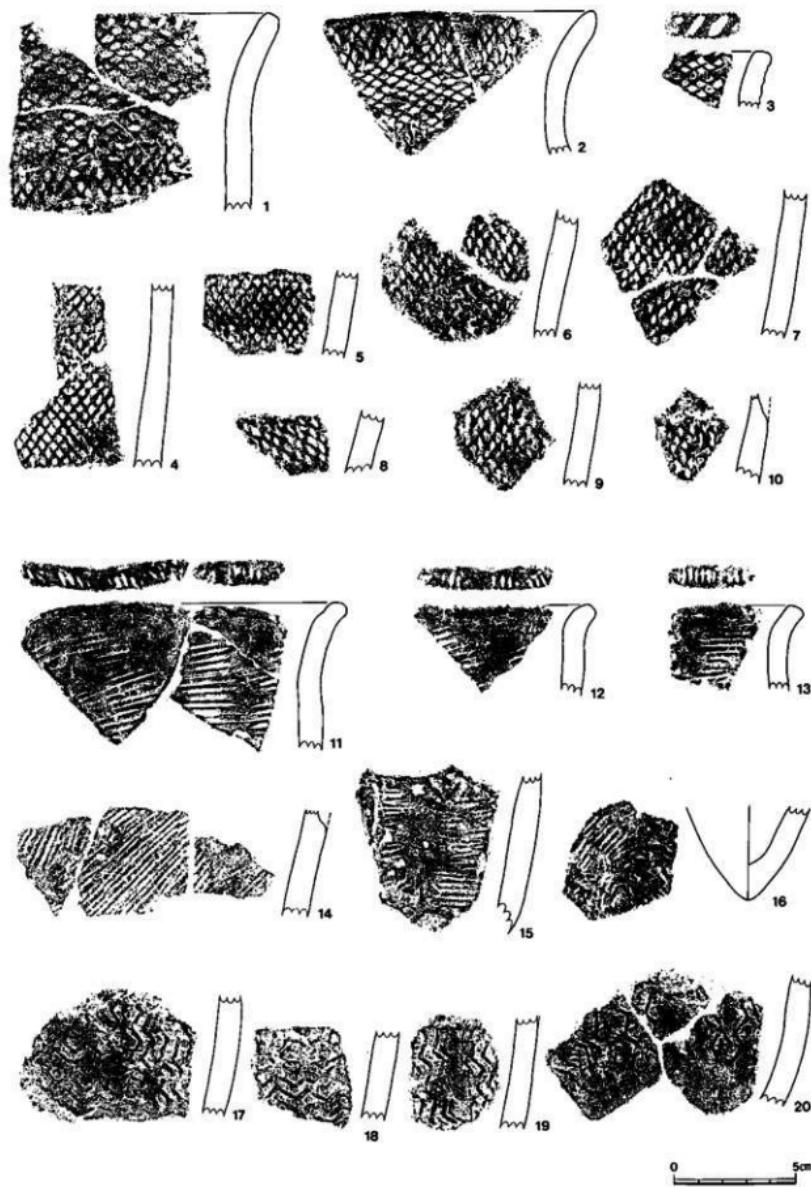


図23 九谷地遺跡（4次）出土の縄文土器（1）

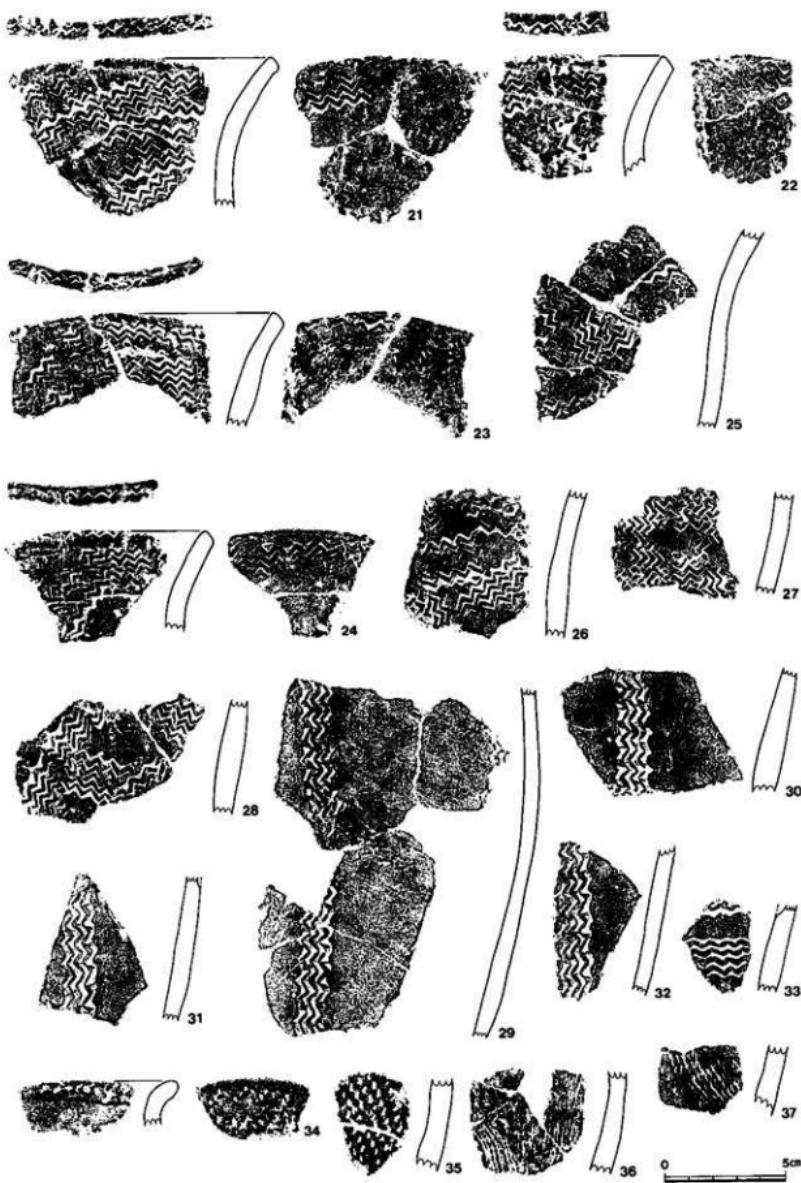


図24 九谷地遺跡（4次）出土の縄文土器（2）

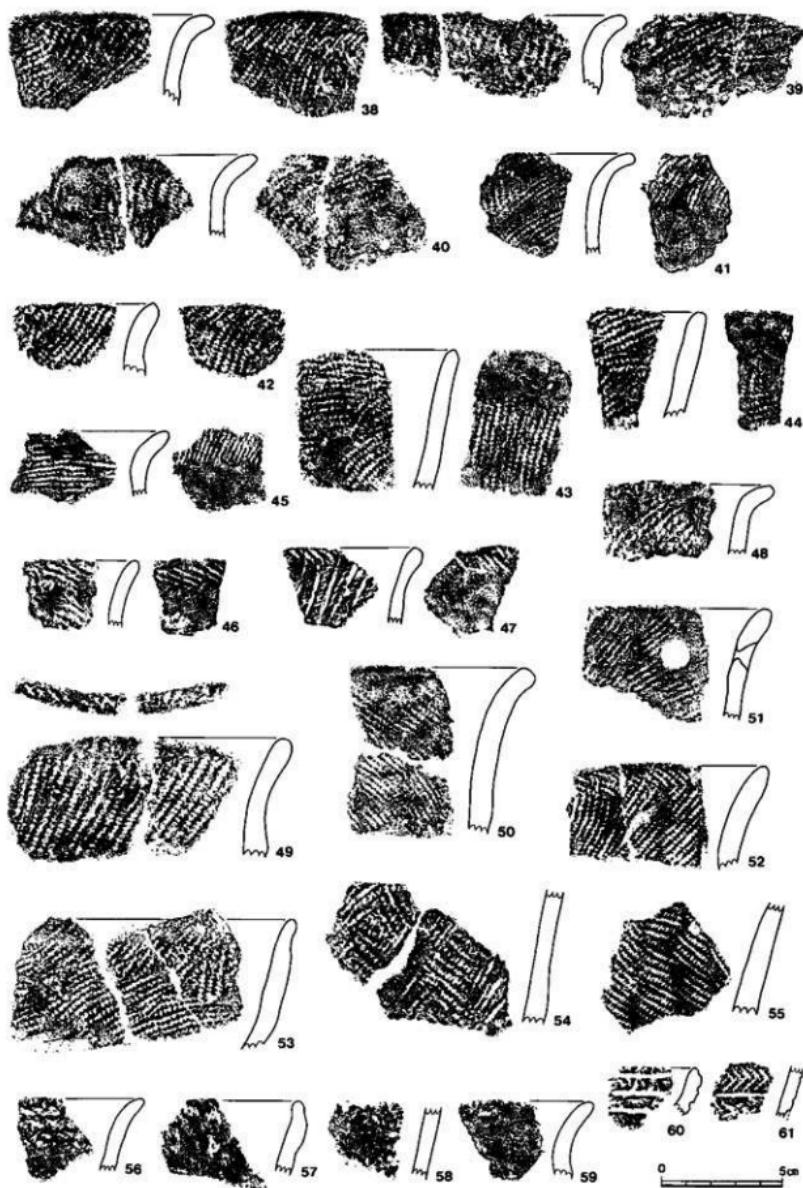


図25 九谷地遺跡（4次）出土の縄文土器（3）

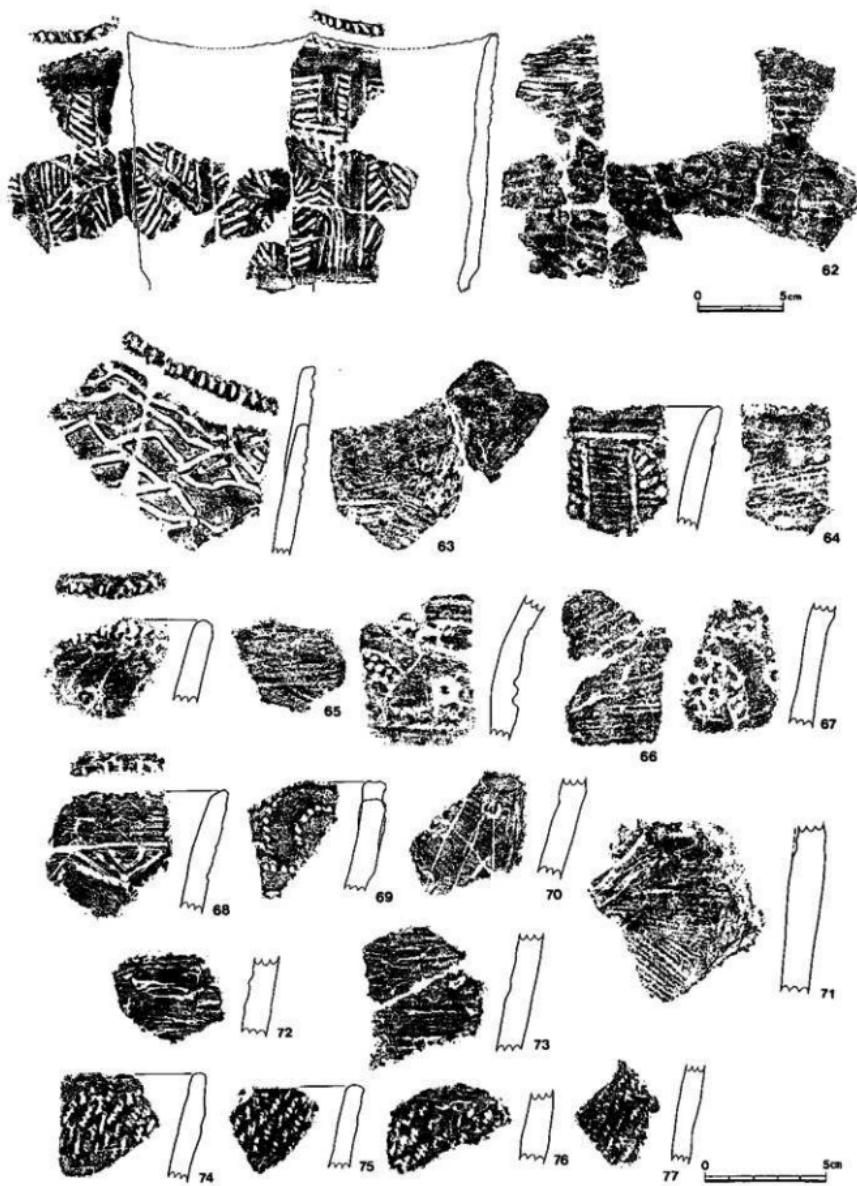


図26 九谷地遺跡（4次）出土の縄文土器（4）

表6 丸谷地遺跡（4次）出土の繩文土器一覧（1）

No	時期	文様	文様要素	織維	遺物番号	色調	器壁mm	備考
1	早期前半	押型文	格子目文		98MY II UH4-2 98MY II UH4-2下	褐色	9.1~9.6	口縁部、褐色
2	早期前半	押型文	格子目文		98MY II VG6-3(2)	褐色	9.0~9.7	口縁部
3	早期前半	押型文	格子目文		98MY II VC6-2	褐色	8	口縁部
4	早期前半	押型文	格子目文		98MY II UH4-2(2)	褐色	7.5~8.2	
5	早期前半	押型文	格子目文		98MY II UH3-3	褐色	8.1	
6	早期前半	押型文	格子目文		98MY II VHT-1(2)	赤褐色	9.2~9.6	
7	早期前半	押型文	格子目文		98MY II WA7-4下(3)	赤褐色	8.5	
8	早期前半	押型文	格子目文		98MY II WA7-4下	赤褐色	9.5	
9	早期前半	押型文	格子目文		98MY II VG7-1	暗褐色	8.5~9.3	
10	早期前半	押型文	格子目文		98MY II VG7-4下	赤褐色	8.7~9.9	
11	早期前半	押型文	平行線文		98MY II UG2-1下 98MY II VD5-1 98MY II VD5-1下	明褐色	8.6~10.0	口縁部
12	早期前半	押型文	平行線文		98MY II VD5-3	明褐色	9	口縁部
13	早期前半	押型文	平行線文		98MY II UH4-1	褐色	7.6~8.1	口縁部
14	早期前半	押型文	平行線文		98MY II WA7-4下 98MY II WA8-2	褐色	9.3~9.9	
15	早期前半	押型文	平行線文		98MY II WA5カマド	褐色	9.6	
16	早期前半	押型文	平行線文		98MY II VF5-1	褐色	8.1	
17	早期前半	押型文	山形文		98MY II VA5-3	赤褐色	8.8~9.4	底部
18	早期前半	押型文	山形文		98MY II UH4-2	赤褐色	8.6~9.0	
19	早期前半	押型文	山形文		98MY II UH4-4	赤褐色	8.1~9.3	
20	早期前半	押型文	山形文		98MY II UHS-2 98MY II VA5-1(2)	赤褐色	7.9~10.0	
21	早期前半	押型文	山形文		98MY II WA8-3下(3)	褐色	6.0~7.0	口縁部・表裏施文
22	早期前半	押型文	山形文		98MY II WA8-3 98MY II WA8-3下	褐色	6.3~7.5	口縁部・表裏施文
23	早期前半	押型文	山形文		98MY II WA8-3 98MY II WA8-3下	褐色	5.9~7.0	口縁部・表裏施文
24	早期前半	押型文	山形文		98MY II WA8-3 98MY II WA8-3下	褐色	6.9~7.6	口縁部・表裏施文
25	早期前半	押型文	山形文		98MY II WA8-3(2) 98MY II WA8-3下(2)	褐色	7.1~7.8	
26	早期前半	押型文	山形文		98MY II WA8-3	褐色	6.7~7.5	
27	早期前半	押型文	山形文		98MY II WA8-3	褐色	6.6~7.4	
28	早期前半	押型文	山形文		98MY II WA8-3下(2)	褐色	7.0~7.7	
29	早期前半	押型文	山形文・帯状施文		98MY II UH4-3下(3) 98MY II VA4-1(2)	褐色	5.1~6.0	
30	早期前半	押型文	山形文・帯状施文		98MY II VA4-1	暗褐色	5.6~8.5	
31	早期前半	押型文	山形文・帯状施文		98MY II VA4-1	暗褐色	5.7~6.8	
32	早期前半	押型文	山形文・帯状施文		98MY II VA4-1	暗褐色	5.6~6.1	
33	早期前半	押型文	山形文・帯状施文		98MY II UP1-1下	褐色	7.1~7.7	
34	早期前半	撚糸文	表裏撚糸文		98MY II VH7-3下	赤褐色	7.5	口縁部・表裏施文
35	早期前半	撚糸文	表裏撚糸文		98MY II WC7-1下	赤褐色	7.4~8.7	
36	早期前半	撚糸文			98MY II WA6-2下(4)	赤褐色	7.5~8.5	
37	早期前半	撚糸文			98MY II VH6-4下	赤褐色	7.4~8.6	
38	早期前半	表裏繩文	単節		98MY II VF5-1下	褐色	6.4	口縁部
39	早期前半	表裏繩文	単節		98MY II VG6-1下	赤褐色	6.5~7.0	口縁部
40	早期前半	表裏繩文	単節		98MY II VF6-2下 98MY II VG6-3下	赤褐色	6.8	口縁部
41	早期前半	表裏繩文	単節		98MY II HT-1下	暗褐色	5.8	口縁部
42	早期前半	表裏繩文	単節		98MY II VG7-4	褐色	6.5	口縁部
43	早期前半	表裏繩文	単節		98MY II PF8-4下	褐色	6.8~7.4	口縁部
44	早期前半	表裏繩文	単節		98MY II UC1-1下	暗褐色	7.1~7.6	口縁部
45	早期前半	表裏繩文	単節		98MY II VG7-1下	明褐色	5.5~6.1	口縁部
46	早期前半	表裏繩文	無節		98MY II WA7-3	赤褐色	6.5	口縁部
47	早期前半	表裏繩文	無節		98MY II WA7-3	褐色	5.3~6.6	口縁部
48	早期前半	繩文	単節		98MY II VG7-4下	明褐色	5.8	口縁部

表7 丸谷地遺跡（4次）出土の縄文土器一覧（2）

49	早期前半	縄文	単節		98MY II VD5-4 98MY II VD6-1	褐色	7.4-8.8	口縁部
50	早期前半	縄文	単節		98MY II VG6-4下 98MY II VG6-4	暗褐色	9.7-11.0	口縁部
51	早期前半	縄文	単節		98MY II WA8-3下	褐色	7.5-8.0	口縁部
52	早期前半	縄文	単節		98MY II VG5-2下(2)	褐色	9.3-10.0	口縁部
53	早期前半	縄文	単節		98MY II UC3-2 98MY II UC5-2(2)	暗赤褐色	7.8	口縁部
54	早期前半	縄文	単節		98MY II VG7-4下(2)	赤褐色	7.0-8.1	
55	早期前半	縄文	単節		98MY II VB5-4	暗褐色	7.2-10.6	
56	早期	縄文	単節		98MY II VG5-4下	黒色	5.4	口縁部
57	早期	無文			98MY IV CB1-4下	黒褐色	5.6-7.3	口縁部
58	早期	無文			98MY II VF7-4下	黒褐色	5.3	
59	早期	無文	有		98MY II VD5-4下	赤褐色	6.5-7.4	口縁部
60	早期後半	沈線文	貝殻腹縁文	ごく少し	98MY II VF6-2下	明赤褐色	6.3	口縁部
61	早期後半	沈線文	貝殻腹縁文		98MY II VB6-2	褐色	5.0	
62	早期後半	条痕文	鶴ヶ島台式	やや多い	98MY II UH3-1(4) 98MY II UH5-4(3) 98MY II UH5-4下(2) 98MY II VA5-3(5)	暗灰褐色	7.5-8.8	口縁部
63	早期後半	条痕文	鶴ヶ島台式	有	98MY III VA4-3(2)	褐色	6.5	口縁部
64	早期後半	条痕文	鶴ヶ島台式	有~や や多い	98MY II VG5-3	赤褐色	9.0	口縁部
65	早期後半	条痕文	鶴ヶ島台式	少し	98MY IV住2	褐色	8.7	口縁部
66	早期後半	条痕文	鶴ヶ島台式	有	98MY IV住(2)	褐色	8.1-11.0	
67	早期後半	条痕文	鶴ヶ島台式	ごく少し	98MY II WA8-1	褐色	8.3-8.9	
68	早期後半	条痕文	鶴ヶ島台式	やや多 多い	98MY IV CB1-4下	褐色	8.2	口縁部
69	早期後半	条痕文	鶴ヶ島台式	有~やや やや多い	98MY IV CC1-1	褐色	9.5	口縁部
70	早期後半	条痕文	鶴ヶ島台式	少し	98MY II WC8-4 98MY II WC8-4下	暗褐色	9.4-9.9	
71	早期後半	条痕文		有	98MY II WB8ピット	黒褐色	10.5-12.7	
72	早期後半	条痕文		多い	98MY II WC8-1	褐色	10.7	
73	早期後半	条痕文		多い	98MY IV CB1-2(2)	褐色	10.0	
74	縄文	複節	ごく少し		98MY II VH4-4	明赤褐色	8.7	口縁部
75	縄文	複節	ごく少し		98MY II WD8-4	明赤褐色	7.4-7.9	口縁部
76	縄文	複節	ごく少し		98MY II WC8-4	明赤褐色	8.9-10.2	
77	縄文	複節	ごく少し		98MY II WC8-4	明赤褐色	7.2-7.8	

表8 丸谷地遺跡（4次）の出土遺物点数

	平安土器	縄文土器	石器	礫	合計
発掘区	1,751	3,203	844	1731	6929
4号住居址	454				454
5号住居址	1,413	55	1		1469
6号住居址	711	49			760
合計	3,307	3,729	845	1,731	9,612

表9 丸谷地(4次)出土の縄文土器一覧(1)

グリット	平安土器	縄文土器	石器	纏	合計	グリット	平安土器	縄文土器	石器	纏	合計		
IIP	E8	1	24	5	18	48	IV	H6	57	62	26	48	193
	F8	11	53	15	29	108		H7	24	284	20	61	389
IU	E1	4	25	3	9	41		H8	8	40	4	7	59
E2	1	1			2		IIW	A5	7	16	5	4	32
F1	124	131	10	43	308		A6	27	41	13	12	93	
F2	193	71	14	26	214		A7	10	116	16	36	108	
F3	5	1		4	10		A8	98	172	14	46	330	
G1	52	24	4	10	90		B6	5	19	7	8	40	
G2	72	49	10	30	161		B7	20	35	8	15	78	
G3	18	48	13	59	138		B8	108	38	8	22	176	
G4	3	10	5	9	27		C6		1			1	
H2	1		3	4	8		C7	12	23	5	9	49	
H3	8	28	6	36	78		C8	22	34	6	23	85	
H4	3	55	5	50	113		D8	5	19	2	5	31	
H5		20		18	38		IVC	A1	23	15	1	11	50
IIY	A4	2	32	9	28	71		B1	62	39	9	11	121
	A5	7	40	14	57	118		C1	23	32	6	17	78
	A6	6	6	4	10	26		C2	16	23	2	5	46
B4		1	2	6	9		D1	7	7		3	17	
B5	4	47	53	54	158		D2	1		1		2	
B6	26	50	12	20	108		D3	1		1		2	
C4		21	7	13	41		E2			2	2	4	
C5		106	37	50	193		E3	5	12			17	
C6		84	9	35	121		F1			1		1	
D4		34	8	46	88		F2			1		1	
D5		173	36	218	427		F4	8		1		9	
D6		67	17	75	159		G2	6		1		7	
E4		47	7	19	73		G3	6		1		7	
E5	1	109	29	90	229		G4	1		2		3	
E6	5	59	44	43	151		G5	2				2	
E7	4	19	16	3	42		H4	11		1		12	
F5	5	36	12	20	73		H5	11		1		12	
F6	7	109	84	74	334		H6	2				2	
F7	8	83	55	27	173		IVD	A5	1				1
G5		4	2		6		A6	5				5	
G6	22	208	24	47	351		B6	1				1	
G7	16	199	51	69	335		B7		1			1	
G8	4	22	1	9	36		C5			1		1	
H4	2				2		その他	601	60	50		111	
H5	29	18	8	22	77		計	1751	3203	844	1731	6929	

表10 丸谷地遺跡(4次)出土の縄文時代石器点数

名称	点数	石材内訳	名称	点数	石材内訳
石器	43	黒曜石	石匙	1	珪質燧質真岩
		凝灰岩	2	1	凝灰岩
		チャート		1	無斑晶質安山岩
		玉髓	1	磨製石斧	1
		真岩	1	凝灰質真岩	1
石器未製品	6	黒曜石	尖頭器	1	無斑晶質安山岩
		凝灰岩			1
		真岩			1
ラウンド・スクレイバー	9	黒曜石	石核	5	黒曜石
		凝灰岩			1
		珪質真岩			1
サイド・スクレイバー	7	無斑晶質安山岩	珪質燧質岩	1	真岩
		真岩	5	1	凝灰質真岩
		珪質真岩			1
		碧玉			1
		チャート			1
スクレイバー	1	無斑晶質安山岩	特殊磨石	5	砂岩

石器未製品	6	無斑晶質安山岩	磨石	19	砂岩
		真岩			6
		珪質真岩			1
		無斑晶質安山岩			1
		1	花こう岩		1
サイド・スクレイバー	7	無斑晶質安山岩	角閃石安山岩	1	角閃石安山岩
		真岩			1
		珪質真岩			1
		碧玉			1
		チャート			1
スクレイバー	1	無斑晶質安山岩	圓石	1	輝石安山岩

石器未製品	6	無斑晶質安山岩	石皿	6	3
		無斑晶質安山岩			3
		1	礫石	2	砂岩
		1			2
		1			2

表11 丸谷地遺跡（4次）出土の平安時代土器内訳

4号住居址

名称	点数
坏 黒色土器	3
坏 土師器	1
甕	8

5号住居址

名称	点数
坏 軟質須恵器	12
坏 黒色土器	10
坏 土師器	4
甕 黒色土器	1
甕 灰釉陶器	1
片口鉢	3
甕	6
小型甕	4
須恵器	1
坏 土師器	1

6号住居址

名称	点数
坏 黒色土器	4
坏 土師器	1
甕 黒色土器	4
甕 灰釉陶器	1
片口鉢	3
甕	2
小型甕	1
羽釜	2

住居址外

坏 土師器	1
甕 黒色土器	1

墨書き土器

6号住居址	1
5号住居址	2

※ 法量1/6以上の点数

表12 丸谷地遺跡（4次）出土の杯の内訳

名称	4号住居址			5号住居址			6号住居址					
	復元土器数	%	破片数	%	復元土器数	%	破片数	%	復元土器数	%	破片数	%
軟質須恵器			2	2	12	46	98	25			5	2
黒色土器	3	75	40	48	10	38	255	65	4	80	80	33
土師器	1	25	42	50	4	15	37	10	1	20	154	65
合計	4	100	84	100	26	99	390	100	5	100	239	100

表13 丸谷地遺跡（4次）出土の平安時代の土器片点数

4号住居址		6号住居址		5号住居址周辺		住居址以外	
名称	点数	名称	点数	名称	点数	名称	点数
坏 黒色土器	40	坏 黒色土器	80	坏 黒色土器	170	坏 黒色土器	170
坏 土師器	42	坏 土師器	154	坏 土師器	432	坏 土師器	432
坏 軟質須恵器	2	坏 軟質須恵器	5	坏 軟質須恵器	3	坏 軟質須恵器	207
甕	250	甕 黒色土器	11	甕 黒色土器	15	甕 黒色土器	9
須恵器	4	甕 土師器	9	甕 灰釉陶器	6	甕 土師器	17
5号住居址		甕	121	甕	197		
坏 黒色土器	255	小型甕	24	5・6号住居址周辺		小型甕	46
坏 土師器	37	羽釜	257	名称	点数	須恵器	56
坏 軟質須恵器	98	須恵器	1	坏 黒色土器	37	長頸甕	3
甕 黒色土器	1			坏 土師器	8	小片	745
甕	495			甕	1		
小型甕	236			甕	79		
片口鉢	12						
須恵器	37						
甕 灰釉陶器	6						
皿	1						

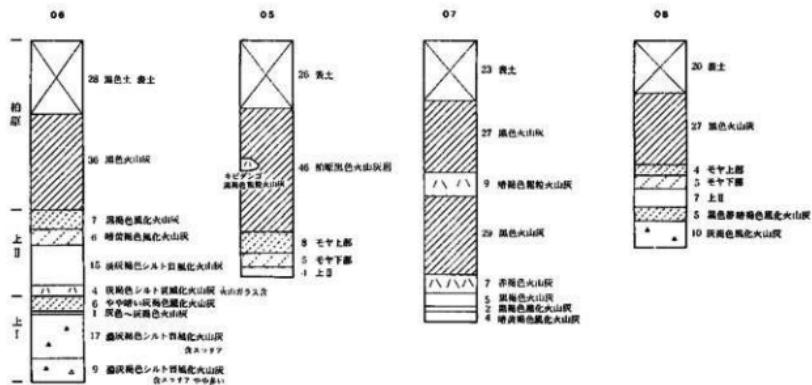
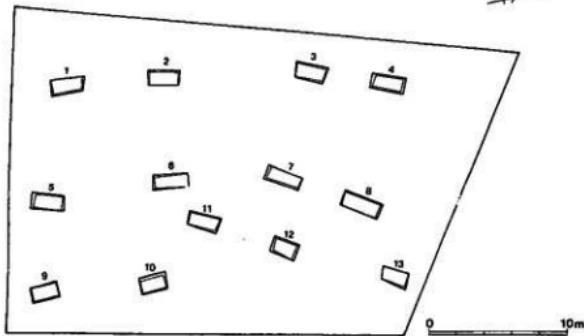
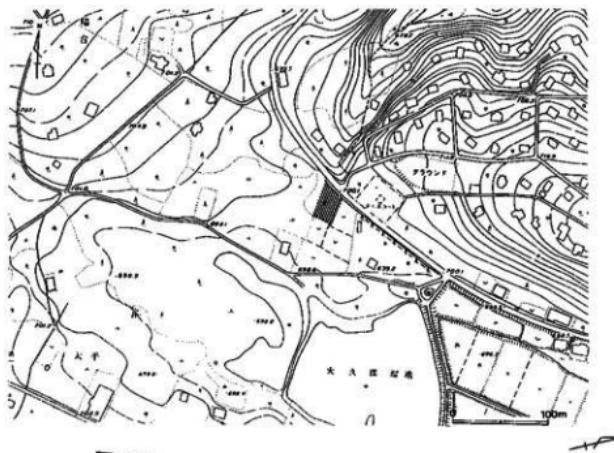


図27 大久保A遺跡の位置、試掘位置、地層

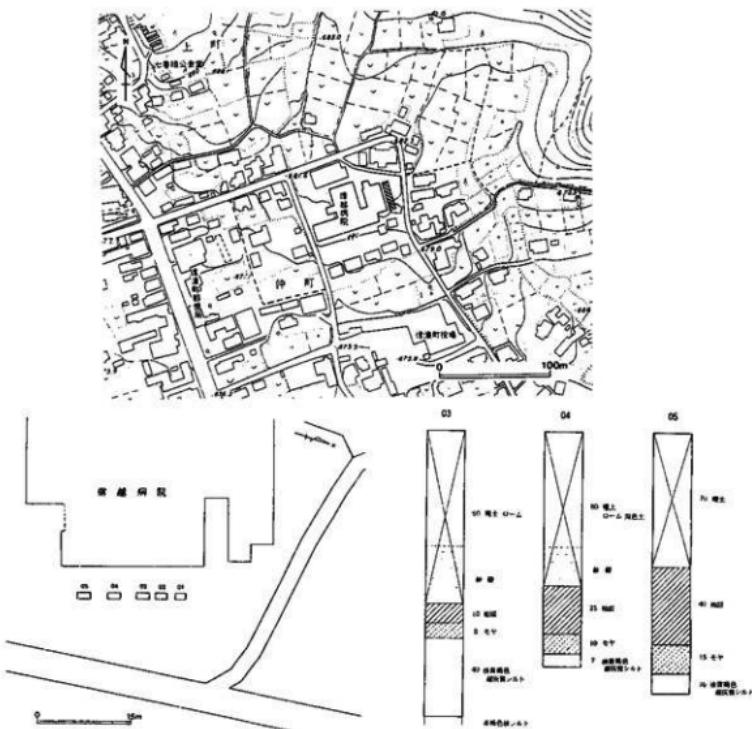


図28 東裏遺跡（信越病院）の位置、試掘位置、地層



図29 上ノ原遺跡（荻原氏車庫）の位置、地層

写真図版1： 大久保南遺跡



1 大久保南遺跡の発掘地全景（東側より）



2 発掘風景（南西側より）



3 発掘風景 H8 ブロックの発掘



4 発掘風景 H8 ブロックの発掘



5 遺物出土状況（西側より）

写真図版2：大久保南遺跡



1 石器の出土状況 H8 ブロック 中央の大きな柱が配石機構



2 石器の出土状況 H8 ブロック



3 石器の記録・取上げ H8 ブロック



4 石器の出土状況 H8 ブロック

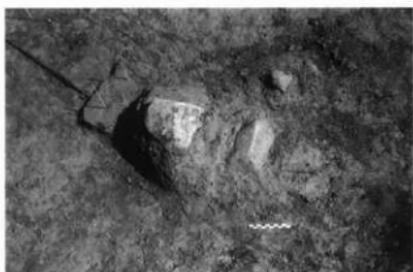


5 ナイフ形石器



6 縦長剥片（石刃）

写真図版3： 大久保南遺跡



1 配石機構 上II最下部 H8 グリッド



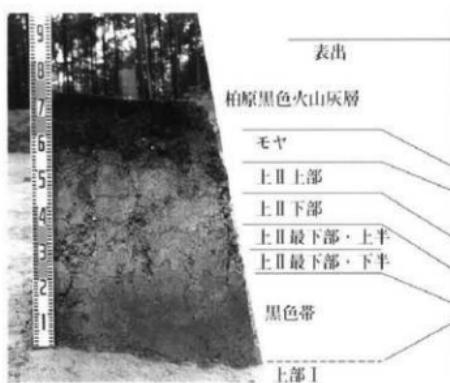
2 配石機構の層位 碓は上II最下部の軟質ローム層に包含される。その下には団結した黒色帶がみられる。



3 配石機構の記録



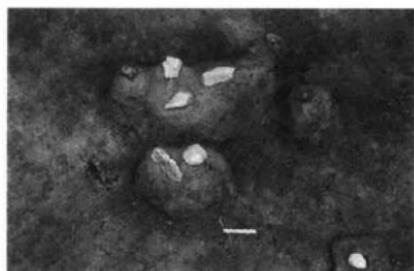
4 配石機構の記録 エレベーション測定



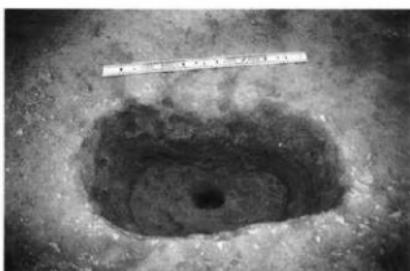
5 発掘地の地層

図版4

写真図版4： 大久保南遺跡・九谷地遺跡



1 磚群 F3 グリッド



2 落とし穴 繩文時代



3 発掘風景 E2 ブロック



4 発掘参加者



5 九谷地遺跡の試掘風景



6 九谷地遺跡の試掘構 遺物の出土状況



7 発掘風景 繩文時代包含層



8 発掘風景

写真図版 5：九谷地遺跡



1 発掘風景 繩文時代包含層



2 遺物の測量、記録



3 遺物の測量、記録



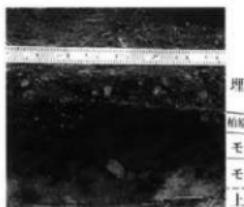
4 遺物の出土状況 繩文時代



5 平安時代住居址 現地説明会 1998.12.7



6 平安時代住居址 現地説明会 1998.12.7



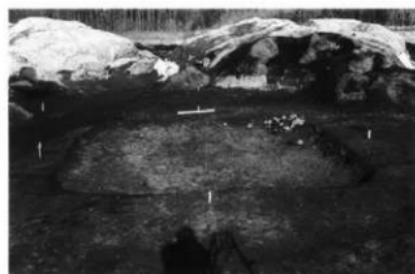
7 九谷地遺跡の地層

図版6

写真図版6：九谷地遺跡・大久保A遺跡・東裏遺跡・上ノ原遺跡



1 平安時代住居址の全景 手前が6号住居址



2 平安時代住居址 6号住居址



3 6号住居址のかまど



4 6号住居址の覆土の断面



5 住居址の発掘風景

写真図版7：丸谷地遺跡、大久保A遺跡、試掘調査



1 保存がいい5号住居址のかまど



2 大久保A遺跡の試掘調査



3 大久保A遺跡の試掘調査



4 大久保A遺跡 有茎尖頭器



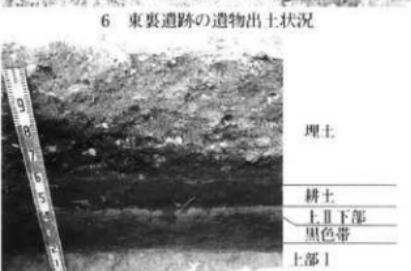
5 東裏遺跡の試掘調査



6 東裏遺跡の遺物出土状況



7 上ノ原遺跡の試掘調査



8 上ノ原遺跡の地層



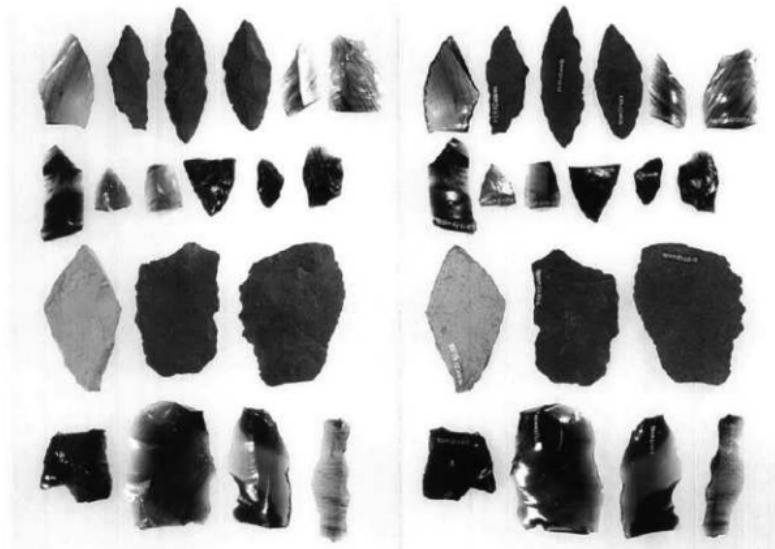
1 H8 ブロックの石器 (1-16)



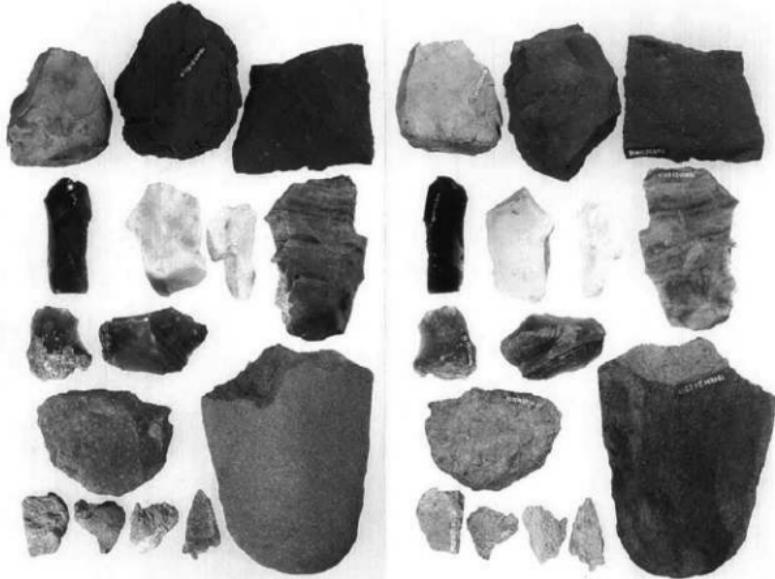
2 H8 ブロックの石器 (17-38)

0 5cm

写真図版9： 大久保南遺跡



1 E2, F3 ブロックの石器



2 E2, F3 ブロックの石器

0 5cm

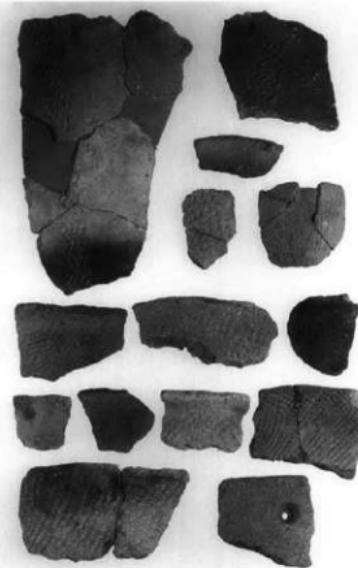
写真図版10：丸谷地遺跡



1 縄文土器



押型文土器



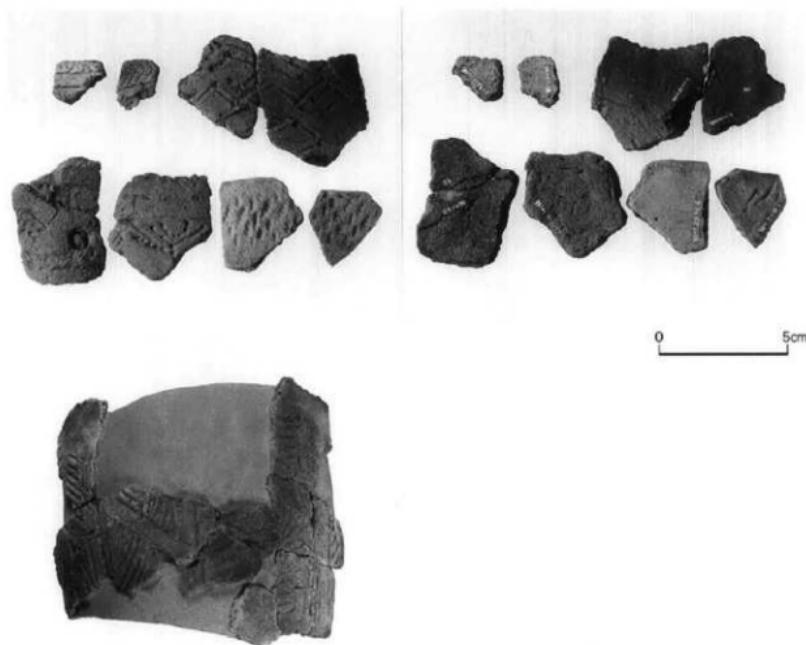
2 縄文土器



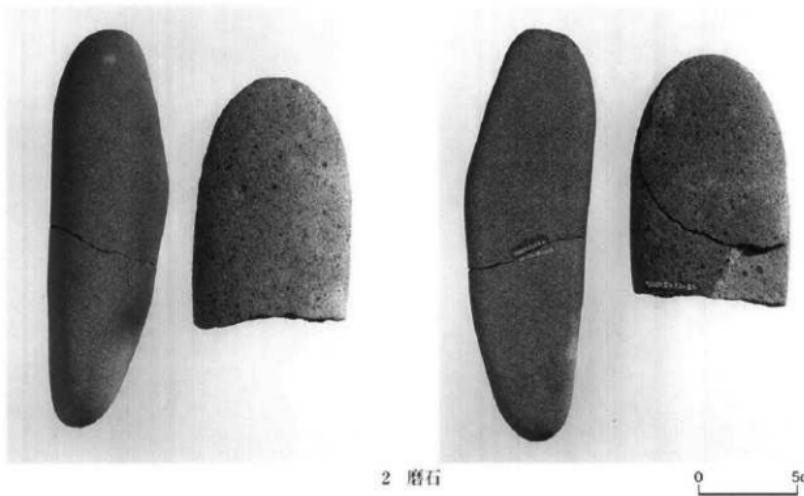
押型文土器、表裏縄文土器など

0 5cm

写真図版11：丸谷地遺跡

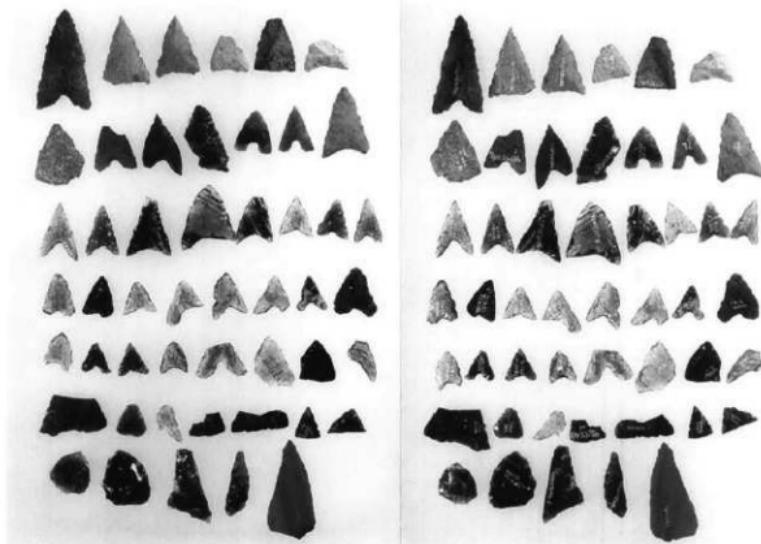


1 沈線文土器、鶴ヶ島台式土器

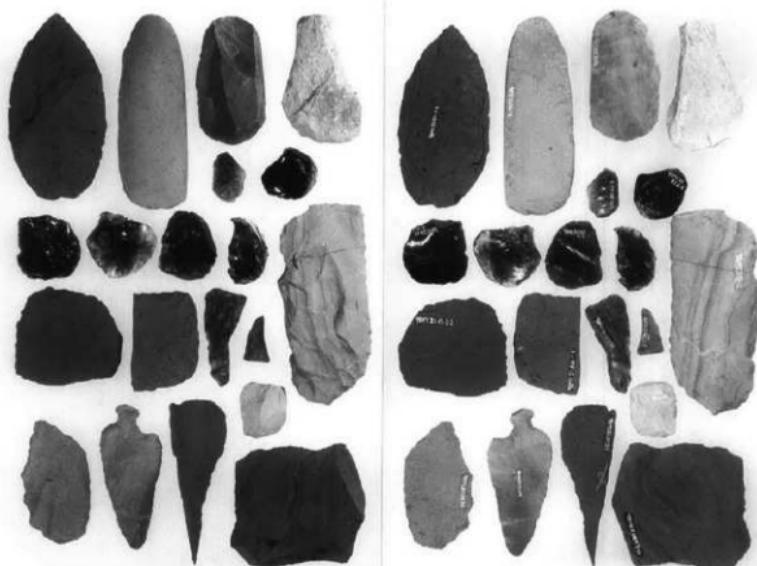


2 研磨石

写真図版 12：丸谷地遺跡



1 石鏃



2 剥片石器

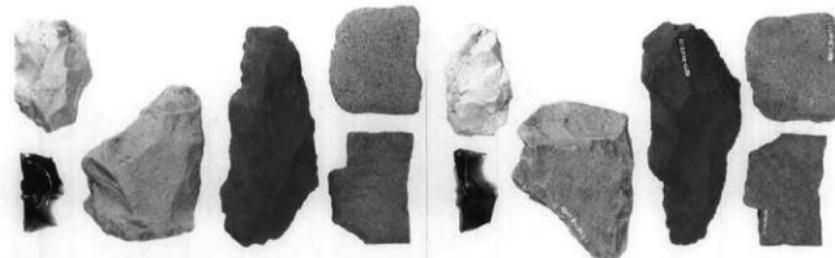
0 5cm

写真図版13：丸谷地遺跡

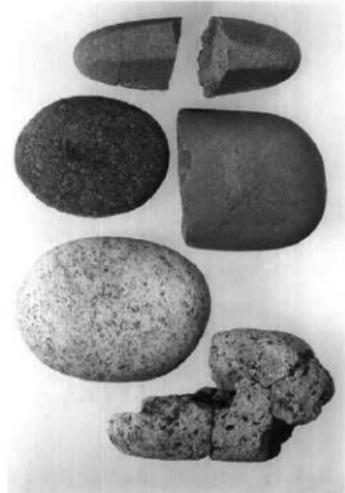


1 石鏃

0 1 cm



2 石核・砾石



3 研磨器・特殊磨石・凹石

0 5cm

報告書抄録

書名	大久保南遺跡（4次）ほか発掘調査報告書
副書名	一後期旧石器時代前半の遺跡－
シリーズ名	信濃町の埋蔵文化財
シリーズ番号	
編著者名	中村由克・内田陽一郎
編集機関	信濃町教育委員会
所在地	〒389-1305 長野県上水内郡信濃町柏原428-2 TEL 026-255-5923
発行年月日	1999年3月20日

ふりがな 所収遺跡名	所 在 地	コード		北 緯	東 緯	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
大久保南遺跡	長野県上水内郡信濃町 大字柏原字向山	205834	61	36度 48分 46秒	138度 12分 25秒	19980410～ 19980527	450	個人住宅
丸谷地遺跡	長野県上水内郡信濃町 大字穂波字丸谷地	205834	145	36度 47分 02秒	138度 12分 56秒	19981013～ 19981216	19,809	工場建設 (試掘調査)
上ノ原遺跡	長野県上水内郡信濃町 大字柏原字上ノ原	205834	65	36度 48分 39秒	138度 12分 05秒	19980507	30	個人住宅
大久保A遺跡	長野県上水内郡信濃町 大字柏原字岡実	205834	58	36度 49分 05秒	138度 12分 12秒	19981109～ 19981112	700	埋め立て (試掘調査)
東裏遺跡	長野県上水内郡信濃町 大字柏原字東裏	205834	70	36度 48分 16秒	138度 12分 34秒	19981029	125	病院拡張 (試掘調査)

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大久保南	散布地	旧石器時代 縄文時代	配石遺構 1基 礫群 1基	総出土点数 799点 石器（旧石器） 755点	後期旧石器時代前半の基部加工ナイフ形石器の石器群がまとまって出土した。
丸谷地	散布地	縄文時代 平安時代	住居址 3軒	総出土点数 9,612点 縄文土器 3,729点 石器（縄文） 845点 平安土器 3,307点	縄文時代早期の押型文土器と条痕文土器がまとまって出土した。平安時代の集落が確認された。
上ノ原	散布地			0点	なし
大久保A	散布地	縄文時代 草創期 平安時代	なし	総出土点数 26点 有茎尖頭器 1点 平安土器など 25点	有茎尖頭器が出土した。
東裏	散布地	平安時代	なし	平安土器など 2点	なし

S U M M A R Y

The Ookubo-minami site is located at Ookubo Kashiwabara, Shinano-machi, in the northern end of Nagano prefecture, Central Japan. It is situated in lat. 36°48'46"N., long. 138°12'25"E., and is 716 meters above sea level. The excavation was carried out from June 26 to August 17 in 1998, by the Shinano Town Board of Education, prior to the construction of a house. The total excavation area is about 450 square meters.

The remains that totaled 799 were excavated from two cultural layers of the Upper Nojiri Loam Formation (Pleistocene). There were 755 pieces of Palaeolithic stone tools, 2 pieces of Jomon pottery and so forth.

Most of the artifacts from the Ookubo-minami site belong to the Palaeolithic Period. The results of the excavation are as follows.

1. Ookubo-minami site ; Late Palaeolithic Period (about 30,000 ~ 25,000 y.B.P.)

Among the 755 pieces of stone tools and fragments found, most of them belong to the early half of the Late Palaeolithic Period. Backed blades, scrapers, graters, were yielded from lower most horizon of the Upper Nojiri Loam Member II.

2. Maruyachi site; Initial Jomon Period (about 8,000 y.B.P.)

The Maruyachi site is located at Fujisato in this town. The excavation was carried out from October 13 to December 16 in 1998. Among the 3,307 fragments of pottery found, most of them belong to the early half of the Initial Jomon period.

5. The other sites

The other locality of the Ookubo A site and the Higashiura site were excavated in 1998.

(NAKAMURA Yoshikatsu)

表紙写真

ナイフ形石器と搔器
左端の石器の大きさ45mm
後期旧石器時代の前半

信濃町の埋蔵文化財

大久保南遺跡(4次)ほか発掘調査報告書

-後期旧石器時代前半の遺跡-

編集発行 信濃町教育委員会
長野県上水内郡信濃町柏原428-2

発行日 1999年3月20日

印 刷 信毎書籍印刷株式会社

〔この報告書についての連絡先〕

野尻湖ナウマンジウ博物館

〒389-1303 長野県上水内郡信濃町野尻287-5

TEL 026-258-2090

FAX 026-258-3551

Archaeological Reports of Shinano-machi

Ookubo-minami Site (4th Excavation)

Excavation of the Late Palaeolithic Site

1999

Shinano-machi Board of Education,
Kamiminochi-gun, Nagano, 389-1305 Japan.